

2024 年度 保健衛生学部 IR 報告書

2023 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)



藤田医科大学 | R推進センター
保健衛生学部 | R分室

2024 年 12 月 26 日

藤田医科大学 I R 推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR 分室

2024 年度 保健衛生学部 I R 報告書

2023 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)

2024 年度 保健衛生学部 IR 報告書

「2023 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、2023 年度の保健衛生学部の卒業生を対象とした保健衛生学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2024 年 12 月 26 日

2024 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 保健衛生学部 I R 分室

中村小百合、岡島規子、富田元、小山総市朗、藤村健太、武田和也

目 次

1. 分析結果の概要.....	1
2. ディプロマ・ポリシーについて.....	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度.....	5
3-1) アンケート調査方法.....	5
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析.....	7
3-2-1) 学部全体としての分析	13
3-2-2) 学科間の比較	13
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析.....	16
3-3-1) 看護学科	16
3-3-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻	18
3-3-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻	20
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度.....	22
4-1) アンケート調査方法.....	22
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	22
4-2-1) 看護学科	22
4-2-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻	26
4-2-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻	30
5. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析.....	33
6. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析.....	36
6-1) 看護学科.....	36
6-2-1) リハビリテーション学科（理学療法専攻）	39
6-2-2) リハビリテーション学科（作業療法専攻）	42
7. 参考資料	45

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、2023 年度保健衛生学部卒業生を採用いただいた医療施設の管理担当者に対して、本学科卒業生の保健衛生学部ディプロマ・ポリシーおよび各所属の学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度を評価していただくアンケート調査を実施し、集計・集計・分析を行った。

113 施設・部署にアンケート調査を実施し、84 施設・部署から回答が得られた。回収率は 74.3%であり、昨年度（87.6%）より回収率が低かった。

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者の評価は、学部全体では、「DP 4：国際解決」と「DP 5：生涯学習」以外の 6 項目の評価平均値はほぼ等しく、設問間で大きな相違は認めなかった。「コミユ力」「責任行動」に関する項目は「4：最低水準は修得できている」以上であると高く評価された施設が多かった。また、「DP 4：国際解決」以外の 7 つのディプロマ・ポリシー中央値は、「4：最低水準は修得できている」であった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、DP 1～DP 8 の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べ、-1.27～-0.74 点と低く、昨年度（-1.06～-0.61 点）と同様の傾向であった。

学科・専攻間で比較すると、看護学科において学生自己評価と就職先管理担当者との評価の差が 1 ポイント以上ある項目もあり、リハビリテーション学科と比べ差が大きかった。リハビリテーション学科の方が看護学科より高い評価を得ていた。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者の評価は、看護学科においては、「DP 4：国際解決」と「DP 5：生涯学習」以外は「4：最低水準は修得できた」以上と回答されていた。リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法専攻においては、「DP 4：国際解決」以外は「4：最低水準は習得できた」以上であった。

以上の結果はこれまでの卒業生とほぼ同様の傾向にあった。よって、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、教育は持続的に質を高く保っている状況であると判断できた。ただ、ディプロマ・ポリシーの「DP 4：国際解決」と「DP 5：生涯学習」に関連する項目の評価が低い傾向は継続的であった。今回の調査では評価協力施設に対し、「2：十分に修得できていない」以下の回答をする場合にその理由を自由回答するよう設定したところ、「国際的視野をもって対応する機会がほとんどなく、その視点をもって業務にあたることができていない」「まだ新人であり、自分のことで手一杯の現状である」という趣旨の記載があった。今後も、生涯を通して学習し自らを高める力やグローバル化に関する教育を充実させていくとともに、就職先施設のニーズに応えられるような教育内容の改善を継続していく必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけていべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2023 年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表 2-1 に示す。

表 2-1. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 3) 対人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行え、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができる。

(態度)

- 6) 対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができる。
 - 8) 患者や家族とコミュニケーションをとり、保健・医療・福祉チームのメンバーと良好な関係を築き、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。保健衛生学部の看護学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、リハビリテーション学科（理学療法専攻と作業療法専攻の共通）を表2-3に示す。

表2-2. 看護学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、看護学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生に「学士（看護学）」の学位を授与します。

卒業試験は下記的能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、看護学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 看護職の基盤となる知識と技能を有している。
- 2) 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。
- 3) 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができる。
- 4) 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢を身につけている。
- 5) 多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。
- 6) 保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができる。
- 7) 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができる。
- 8) 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができる。

表2-3. リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生に理学療法専攻では「学士（理学療法学）」、作業療法専攻では「学士（作業療法学）」の学位を授与します。

卒業試験は下記的能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、リハビリテーション学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力を有している。
- 2) 患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度を身につけている。
- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と

適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができる。

- 4) 最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができる。
 - 5) 患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができる。
 - 6) 専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができる。
 - 7) 組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

保健衛生学部の2023年度卒業生を対象として、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はWeb回答方式(Google フォームを利用)とし、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの各項目(計8項目)を設問として、それに対する就業者(2023年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第1～第4教育病院へ就職したものに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の期間は、8月第1週に調査対象となる就職先施設へ調査依頼状(「7. 参考資料」を参照)を郵送し、9月末までにアンケートへのWeb回答を依頼した。

アンケート調査の対象施設を表3-1に示す。

アンケート調査項目(保健衛生学部ディプロマ・ポリシー)を表3-2、達成度の6段階の評定尺度を表3-3に示す。

表3-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

看護学科	調査施設：16施設(第1・2・3・4教育病院含む)
	郵送により調査依頼する施設：12施設(12部)
	第1教育病院(36部)：配属された病棟単位で直接依頼
	第2教育病院(4部)：配属された病棟単位で直接依頼
	第3教育病院(1部)：配属された病棟単位で直接依頼
リハビリ テーション学科	第4教育病院(2部)：配属された病棟単位で直接依頼
	理学療法専攻
	調査施設：34施設(第1・2・3・4教育病院含む)
	郵送により調査依頼する施設：33施設
	第1教育病院(1部)は直接依頼
	作業療法専攻
	調査施設：24施設(第1・2・3・4教育病院含む)
	郵送により調査依頼する施設：23施設
	第1教育病院(1部)は直接依頼

表 3－2. アンケート調査の設問項目（保健衛生学部ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学習内容について知識が習得できていますか？
DP 2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身につけていますか？
DP 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価する為の情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において必要な行動を示すことができるようになっていきますか？
DP 4 (国際解決)	国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか？
DP 5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになっていきますか？
DP 6 (責任行動)	対人の健康維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任を持った行動をとることができるようになっていきますか？
DP 7 (専門技能)	専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができるようになっていきますか？
DP 8 (コミュ力)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか？

表 3－3. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6段階）

-
- 6：完全に修得できた
 - 5：概ね修得できた
 - 4：最低水準は修得できた
 - 3：ある程度修得したが、最低水準には届かない
 - 2：十分に修得できていない
 - 1：全く修得できていない
-

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2023 年度保健衛生学部卒業生を対象とした保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 3-4 に示す。

表 3-4. アンケート調査票の回収状況（学部ディプロマ・ポリシー）

卒業生の学科・専攻	対象施設 (部署)	回答施設 (部署)	回収率	退職理由 の未回答
看護学科	12	5	41.7%	1
(教育病院内部署)	43	34	79.1%	0
リハビリテーション学科理学療法専攻	34	25	73.5%	0
リハビリテーション学科作業療法専攻	24	20	83.3%	0
合計	113	84	74.3%	1

アンケート調査の回答の度数分布を表 3-5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評価尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表３－５．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

DP1 (専門知識)	学部	看護	リ理	リ作
6	6	3	3	0
5	21	8	6	7
4	37	14	13	10
3	19	14	3	2
2	1	0	0	1
1	0	0	0	0
n	84	39	25	20

DP2 (倫理教養)	学部	看護	リ理	リ作
6	8	3	4	1
5	28	12	9	7
4	27	13	8	6
3	19	11	4	4
2	1	0	0	1
1	0	0	0	0
n	83	39	25	19

DP3 (科学行動)	学部	看護	リ理	リ作
6	5	2	3	0
5	20	10	3	7
4	33	14	11	8
3	24	13	7	4
2	2	0	1	1
1	0	0	0	0
n	84	39	25	20

DP4 (国際解決)	学部	看護	リ理	リ作
6	1	1	0	0
5	6	2	3	1
4	21	9	5	7
3	41	21	14	6
2	11	4	1	6
1	3	2	1	0
n	83	39	24	20

DP5 (生涯学習)	学部	看護	リ理	リ作
6	2	1	1	0
5	16	6	6	4
4	31	12	9	10
3	32	19	8	5
2	2	1	0	1
1	1	0	1	0
n	84	39	25	20

DP6 (責任行動)	学部	看護	リ理	リ作
6	7	4	1	2
5	29	13	9	7
4	29	11	10	8
3	19	11	5	3
2	0	0	0	0
1	0	0	0	0
n	84	39	25	20

DP7 (専門技能)	学部	看護	リ理	リ作
6	4	3	0	1
5	25	11	6	8
4	34	13	14	7
3	19	12	5	2
2	2	0	0	2
1	0	0	0	0
n	84	39	25	20

DP8 (コミュ力)	学部	看護	リ理	リ作
6	14	6	5	3
5	20	9	4	7
4	29	14	9	6
3	20	10	6	4
2	1	0	1	0
1	0	0	0	0
n	84	39	25	20

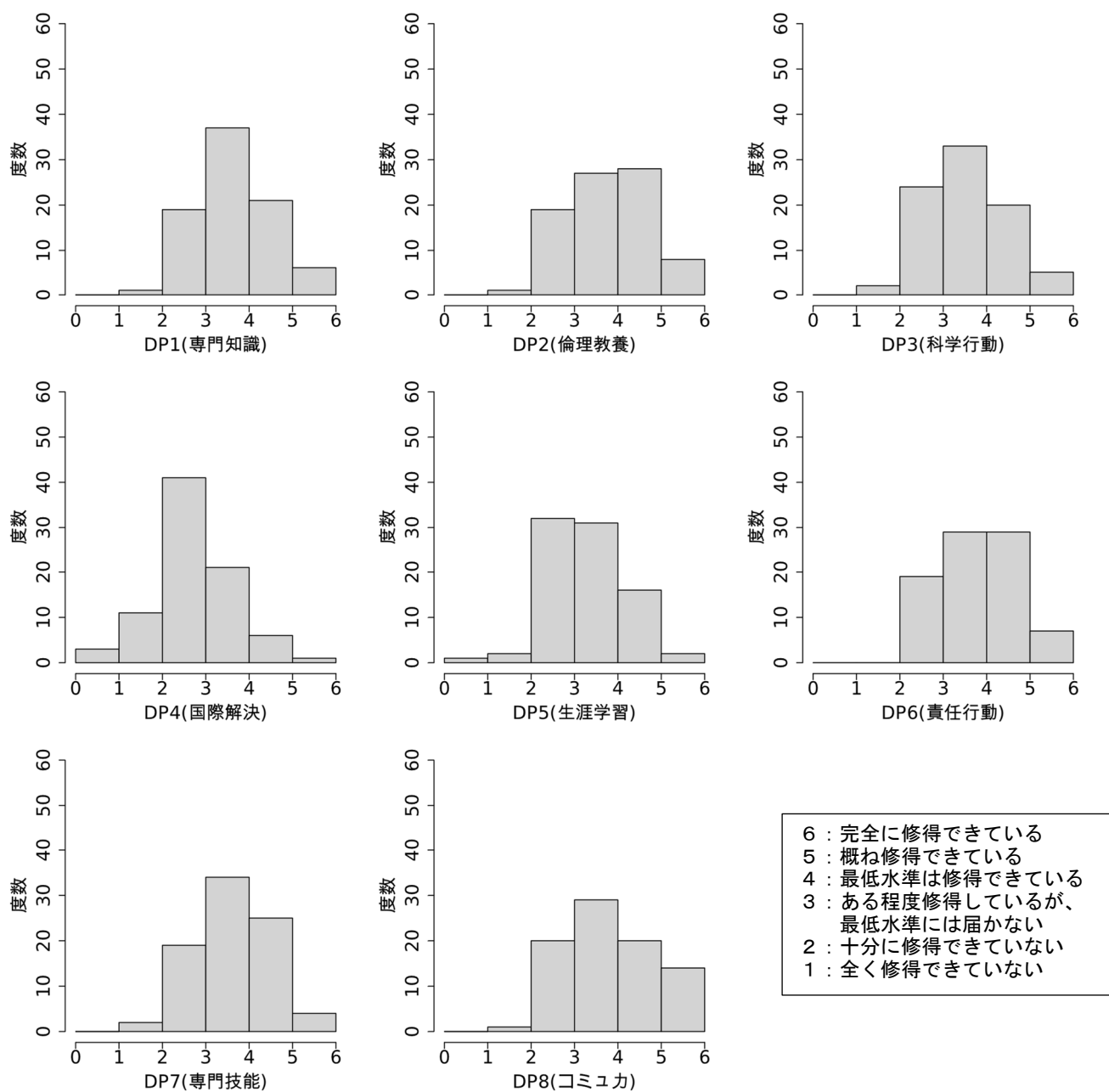


図3－1．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

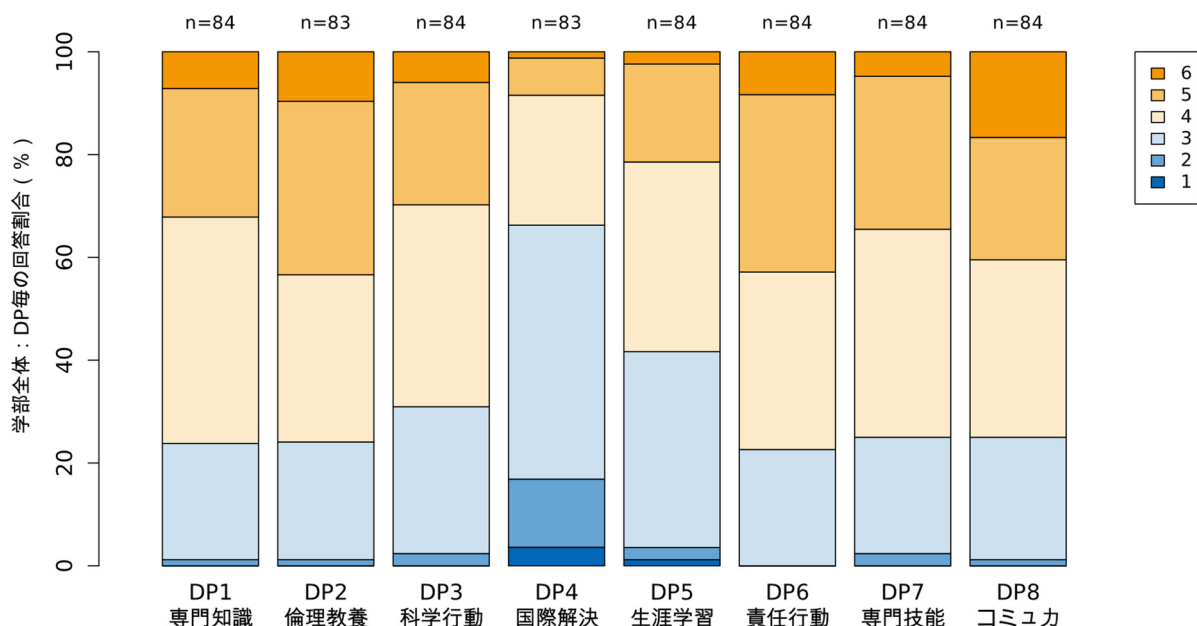


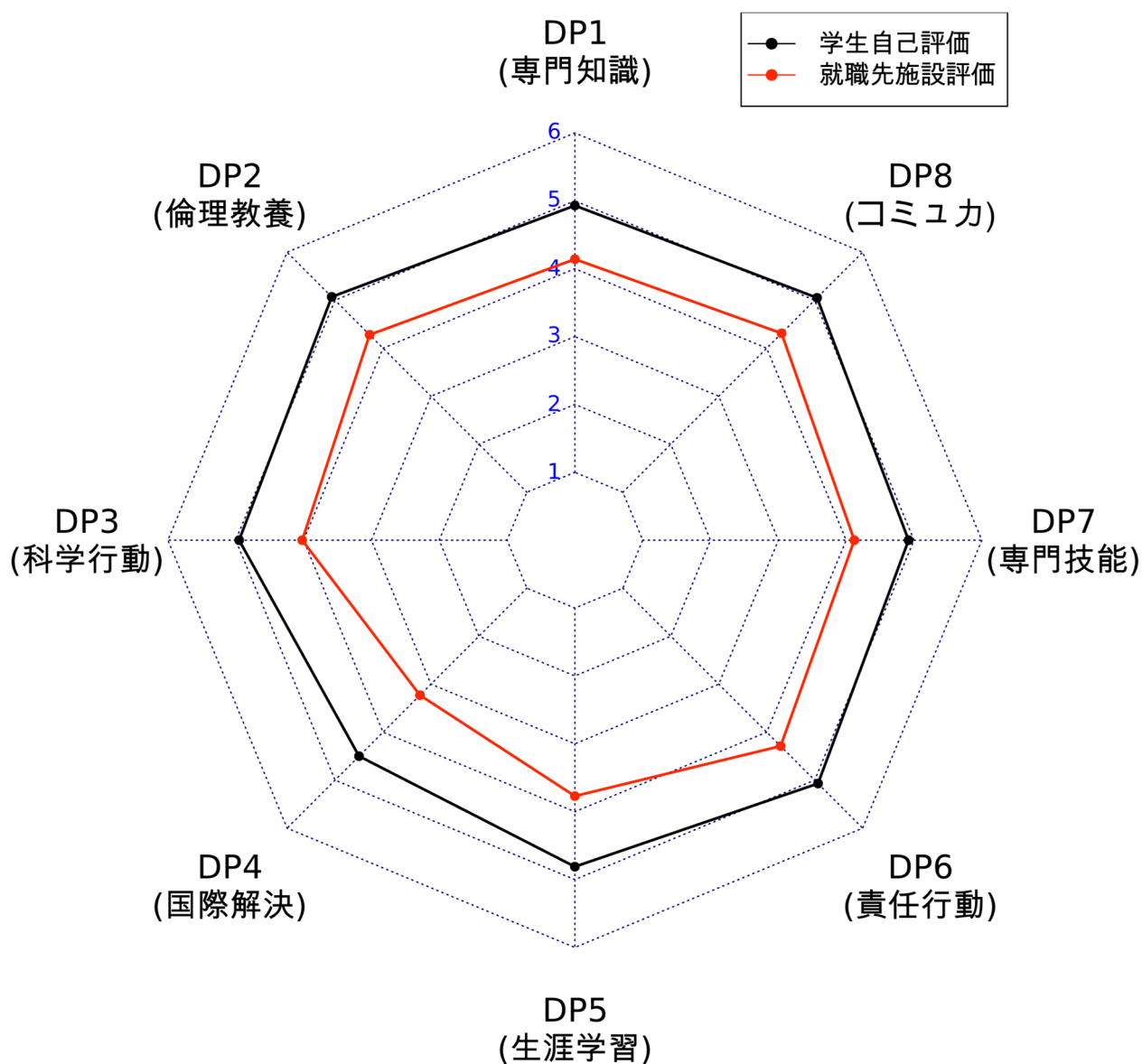
図3-2. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3-6に示す。

DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3-3に示す。DP1～DP8は、保健衛生学部IR分室より2024年6月13日に報告された「2024年度保健衛生学部IR報告書—2023年度卒業生を対象としたディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）—」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表3-4. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図3-3に示す。

表３－６．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 基本統計量

DP1					DP2				
(専門知識)	学部	看護	リ理	リ作	(倫理教養)	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.14	4.00	4.36	4.15	平均値	4.28	4.18	4.52	4.16
標準偏差	0.89	0.93	0.84	0.79	標準偏差	0.96	0.93	0.94	0.99
中央値	4	4	4	4	中央値	4	4	5	4
最大値	6	6	6	5	最大値	6	6	6	6
最小値	2	3	3	2	最小値	2	3	3	2
n	84	39	25	20	n	83	39	25	19
DP3					DP4				
(科学行動)	学部	看護	リ理	リ作	(国際解決)	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.02	4.03	4.00	4.05	平均値	3.23	3.21	3.33	3.15
標準偏差	0.93	0.89	1.02	0.86	標準偏差	0.94	0.97	0.90	0.91
中央値	4	4	4	4	中央値	3	3	3	3
最大値	6	6	6	5	最大値	6	6	5	5
最小値	2	3	2	2	最小値	1	1	1	2
n	84	39	25	20	n	83	39	24	20
DP5					DP6				
(生涯学習)	学部	看護	リ理	リ作	(責任行動)	学部	看護	リ理	リ作
平均値	3.77	3.67	3.88	3.85	平均値	4.29	4.26	4.24	4.40
標準偏差	0.90	0.86	1.03	0.79	標準偏差	0.91	0.98	0.81	0.86
中央値	4	3	4	4	中央値	4	4	4	4
最大値	6	6	6	5	最大値	6	6	6	6
最小値	1	2	1	2	最小値	3	3	3	3
n	84	39	25	20	n	84	39	25	20
DP7					DP8				
(専門技能)	学部	看護	リ理	リ作	(コミユカ)	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.12	4.13	4.04	4.20	平均値	4.31	4.28	4.24	4.45
標準偏差	0.89	0.94	0.66	1.03	標準偏差	1.05	1.01	1.14	0.97
中央値	4	4	4	4	中央値	4	4	4	5
最大値	6	6	5	6	最大値	6	6	6	6
最小値	2	3	3	2	最小値	2	3	2	3
n	84	39	25	20	n	84	39	25	20



保健衛生学部	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.14	4.28	4.02	3.23	3.77	4.29	4.12	4.31
学生自己評価 b	4.93	5.07	4.95	4.50	4.81	5.07	4.92	5.05
差 a-b	-0.78	-0.80	-0.93	-1.27	-1.04	-0.78	-0.80	-0.74

図3-3. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評価値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

保健衛生学部の 2023 年度卒業生を対象とした、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は「DP 4：国際解決」と「DP 5：生涯学習」と以外の 6 項目で大きな差はなかった。

最も評価が高かったのは「DP 8：患者や家族とコミュニケーションをとり、保健・医療・福祉チームのメンバーと良好な関係を築き、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか（コミュ力）」の 4.31 ± 1.05 であり、最も評価が低かった項目は「DP 4：国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか？（国際解決）」の 3.23 ± 0.94 であった（表 3-6）。また、国際解決以外の中央値は、「4：最低水準は修得できている」であった。

「4：最低水準は修得できている」以上の評価が最も多かったのは「DP 6：責任行動」で 77.4% (65/84 件) であり、次いで「DP 2：倫理教養」75.9% (63/83 件) であった。一方、「DP 4：国際解決」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以下の評価が 66.3% (55/83 件) と他の設問に比べ多く、昨年度 (58.4%) よりも増加していた。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、DP 1～DP 8 の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べ、 $-1.27 \sim -0.74$ 点と低く、昨年度 ($-1.06 \sim -0.61$ 点) と同様の傾向であった。

3-2-2) 学科間の比較

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの 8 項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図 3-4 に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図 3-5 に示す。

DP 1～DP 8 の各学科における評価の中央値は、「DP 4：国際解決」で全ての学科が 3 であった。また、「DP 5：生涯学習」の中央値が看護学科で 3 であった。これら以外は、すべて 4 以上であった（表 3-6）。

DP 1～DP 8 の各学科における 4 以上の評価（3 以下の評価）は、看護学科で 62.2% (37.8%)、リハビリテーション学科理学療法専攻で 71.2% (28.8%)、リハビリテーション学科作業療法専攻で 74.2% (25.8%) であり、看護学科の評価が低かった。

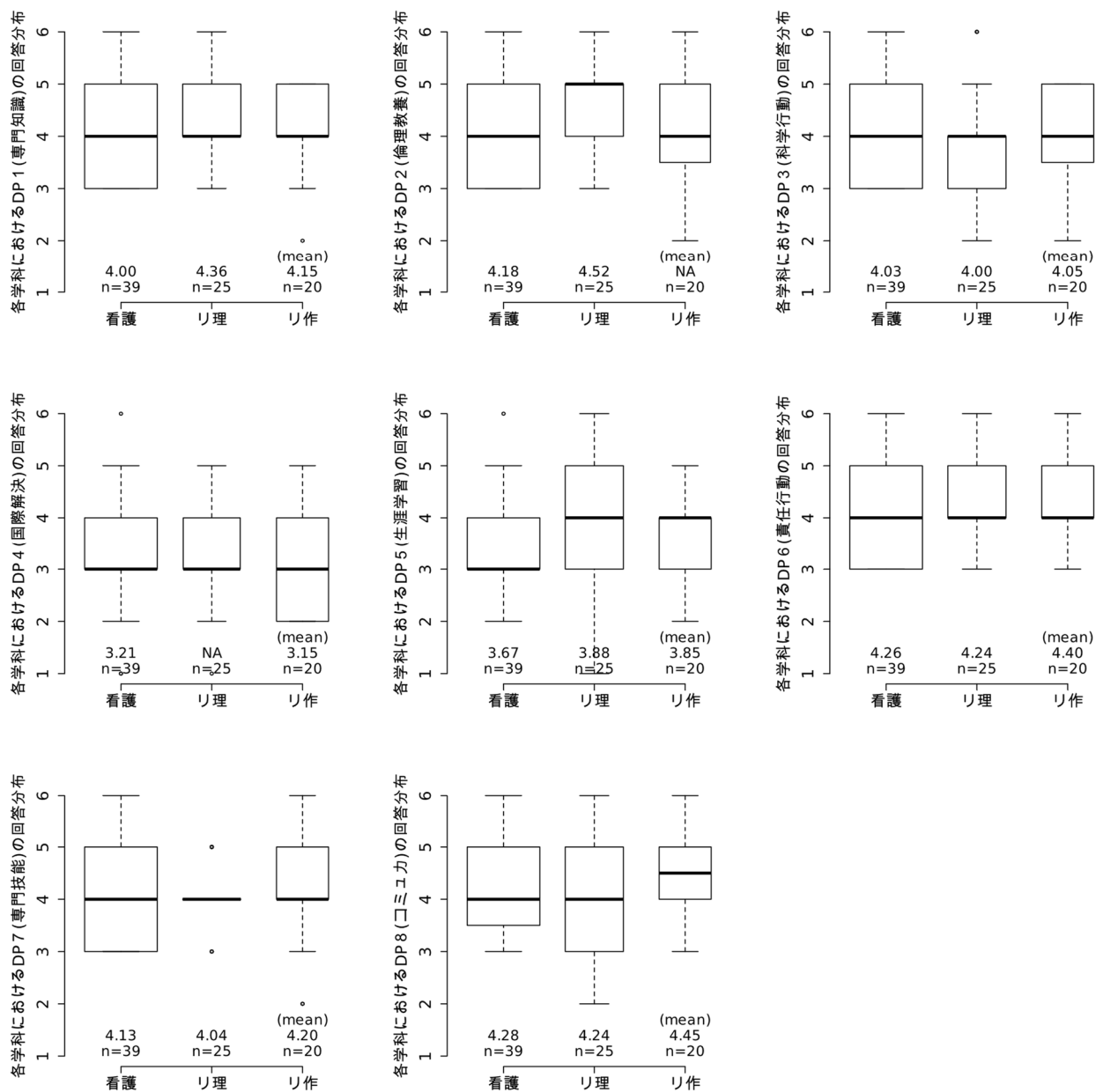


図3-4. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

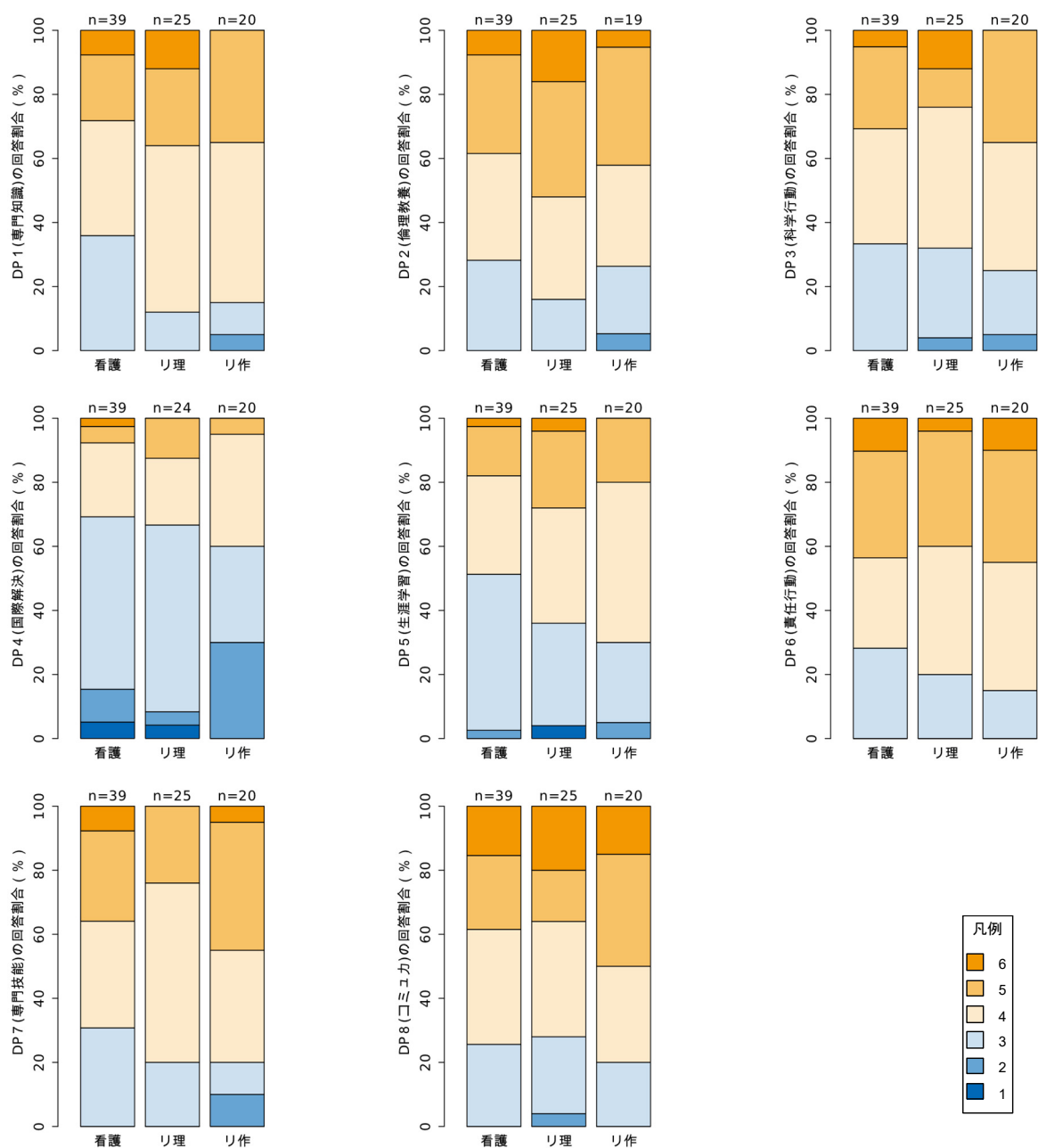


図3-5. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合(%)の比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 看護学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-6に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と看護学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における看護学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-7に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の評定値の平均値はDP3(科学行動)、DP7(専門技能)を除き、学部全体の平均値より低い傾向があった。学生自己評価について看護学科は他学科と比較し、就職先施設評価との差がすべての項目で大きい傾向を示した。DP4(国際解決)は学生自己評価、就職先施設評価ともに平均値が最も低かった。また、学生自己評価と就職先施設評価の差が一番大きかった。

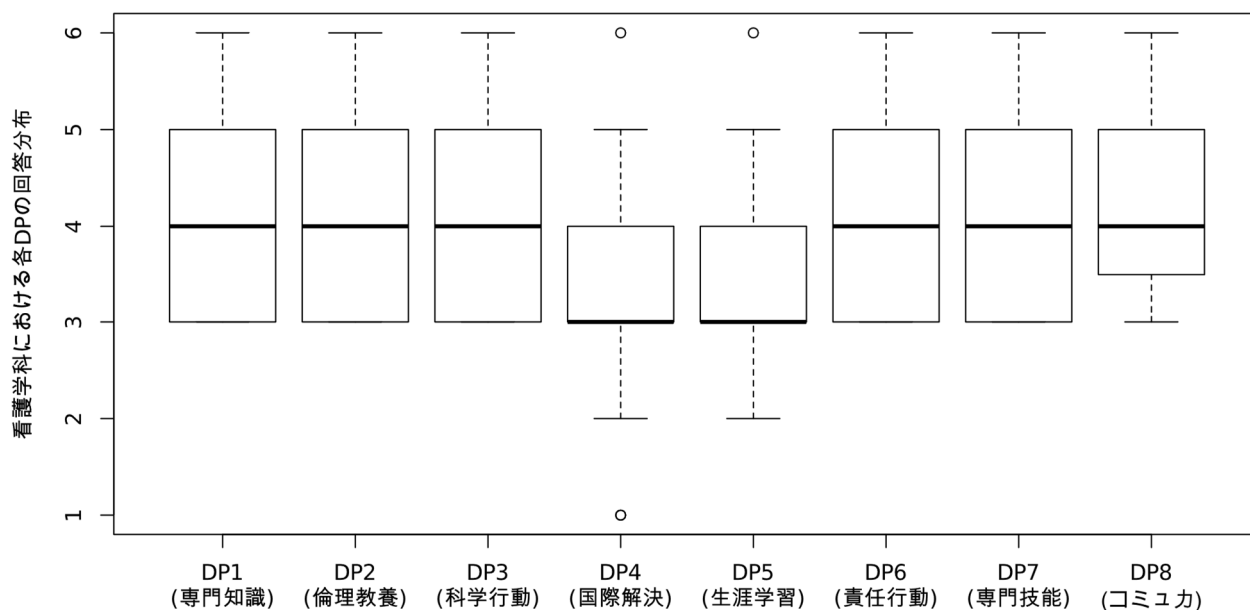
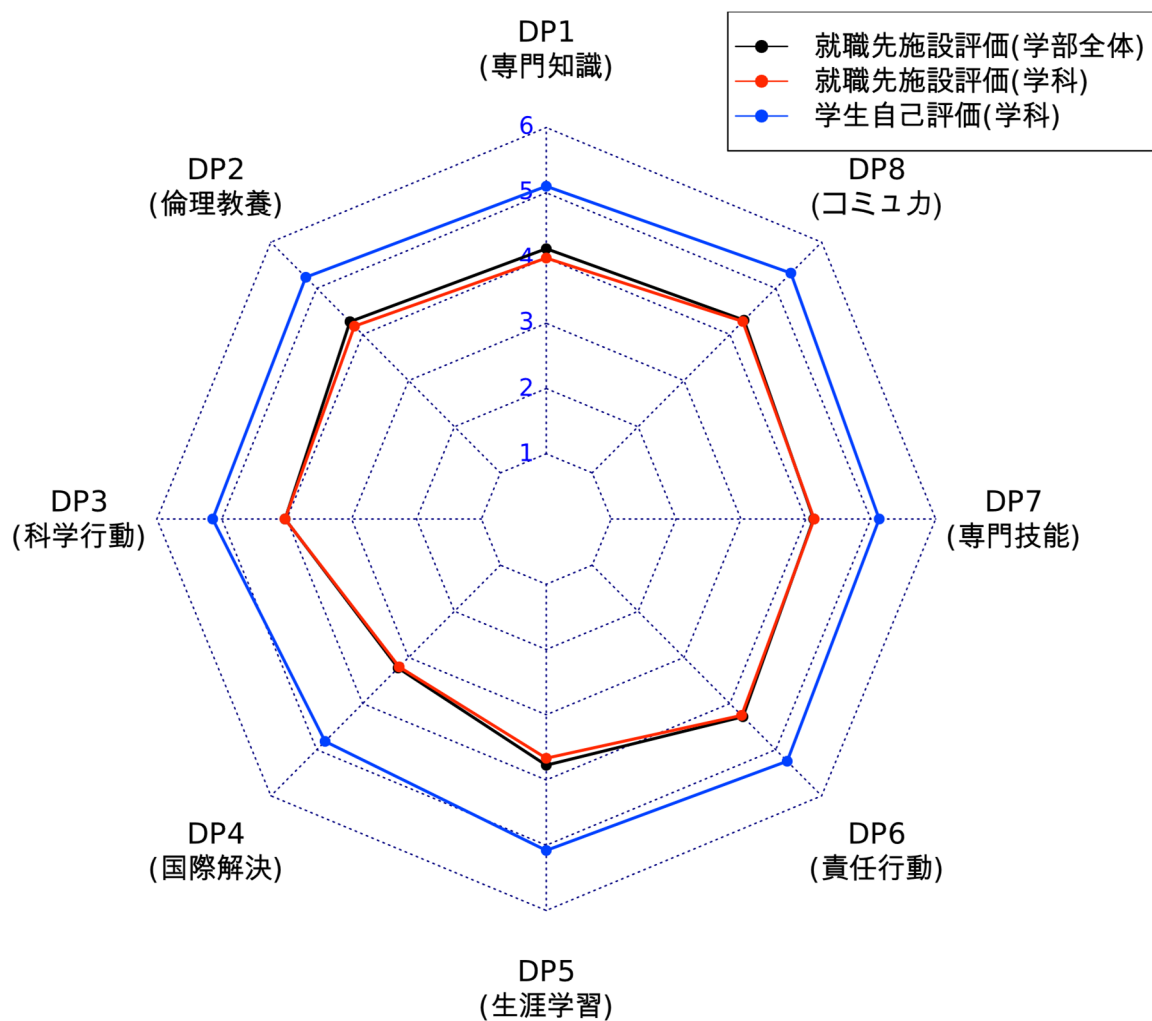


図3-6. 看護学科の回答分布



看護	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.00	4.18	4.03	3.21	3.67	4.26	4.13	4.28
学生自己評価 b	5.10	5.24	5.14	4.82	5.08	5.25	5.13	5.33
差 a-b	-1.10	-1.06	-1.12	-1.62	-1.41	-1.00	-1.00	-1.04

図 3－7． 回答結果の看護学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-8に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・理学療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における理学療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-9に示す。

DP1、DP2、DP4、DP5における評定の平均値は学部全体よりもやや高かった。一方で、その他においては平均値よりもわずかに低い傾向にあった。また自己評価値は、DP1～DP8の全てにおいて、就職先施設評価値に比べ、自己評価値が高い傾向を示し、その差はDP1、DP2で小さく、DP3、DP4で大きかった。

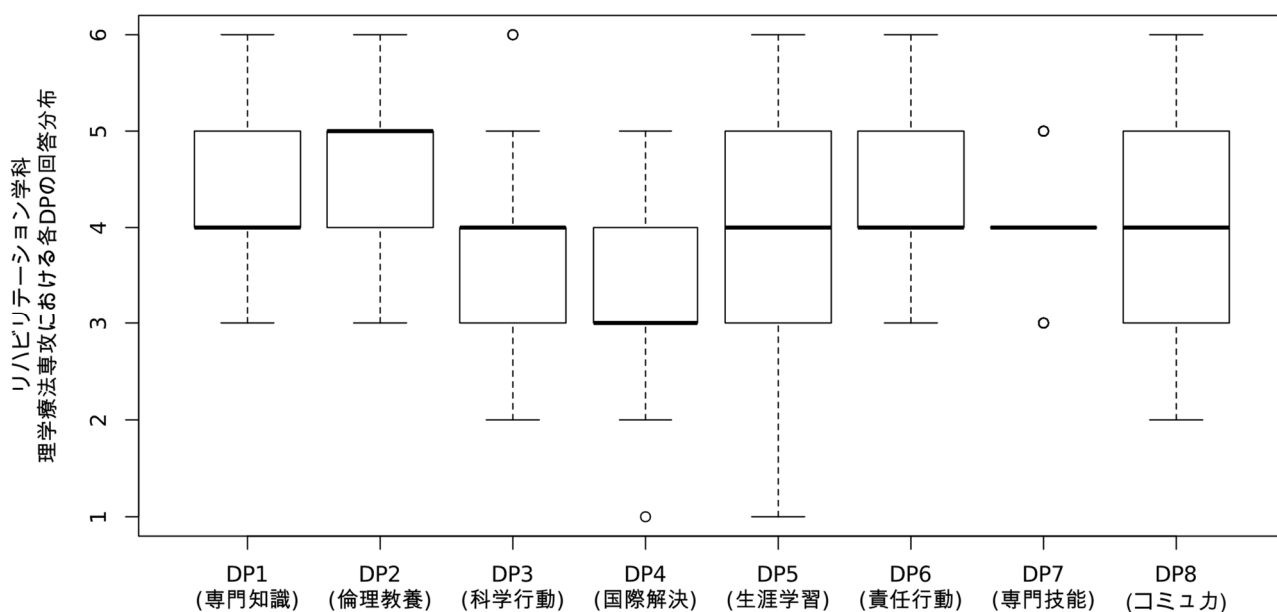
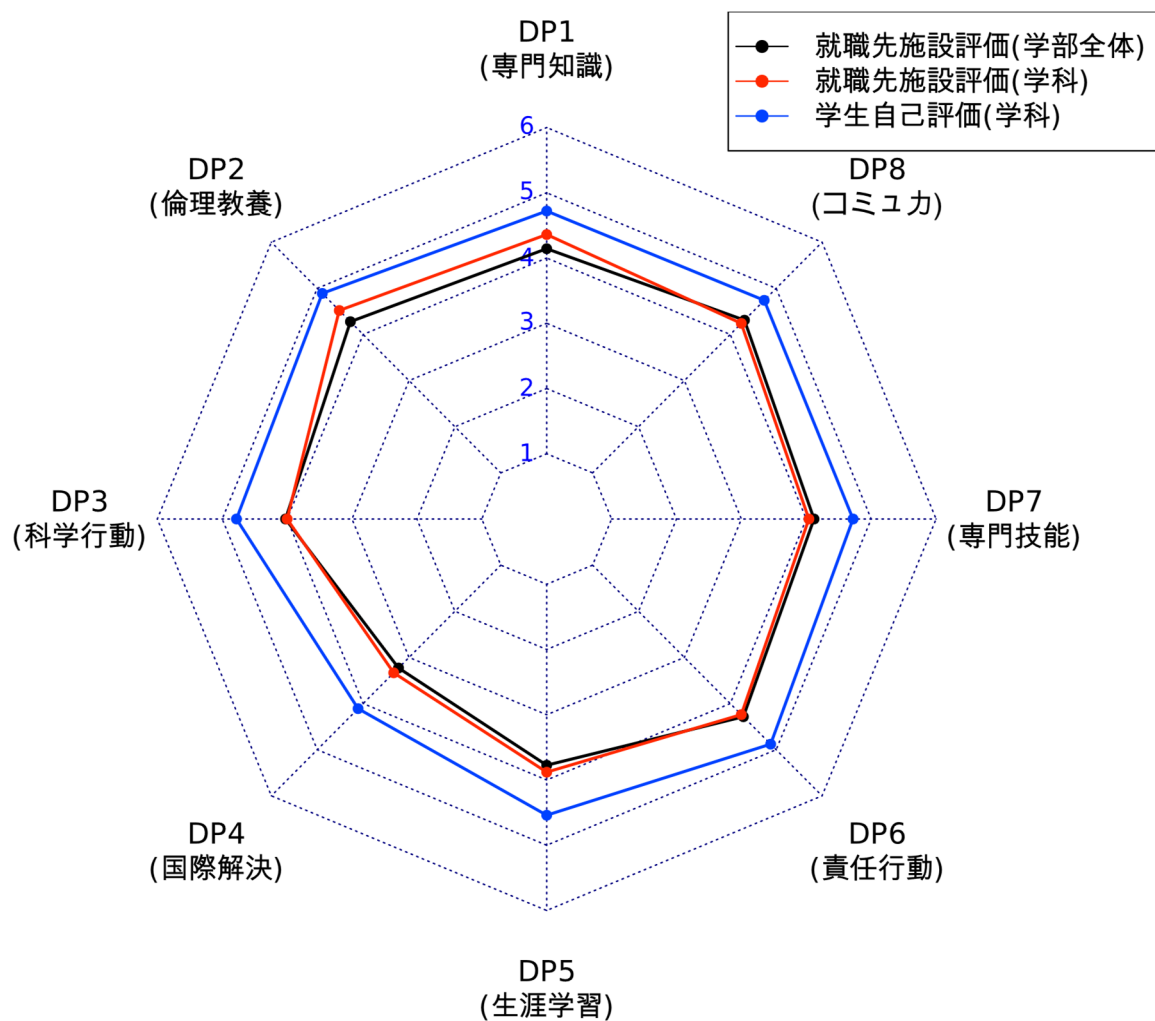


図3-8. リハビリテーション学科理学療法専攻の回答分布



リ理	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.36	4.52	4.00	3.33	3.88	4.24	4.04	4.24
学生自己評価 b	4.72	4.89	4.78	4.11	4.54	4.88	4.72	4.74
差 a-b	-0.36	-0.37	-0.78	-0.77	-0.66	-0.64	-0.68	-0.50

図 3－9．回答結果のリハビリテーション学科理学療法専攻と学部全体との比較（平均値）

3-3-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-10に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・作業療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における作業療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-11に示す。

DP1、DP3、DP5、DP6、DP7、DP8の学科の評定値は、学部全体の平均値に比べて、やや高い傾向にあった。DP2、DP4は学部全体の評価値よりもわずかに低かった。また自己評価値は、DP1～DP8の全てにおいて、就職先施設評価値に比べ、自己評価値が高い傾向を示し、その差はDP8で最小、DP4で最大であった。

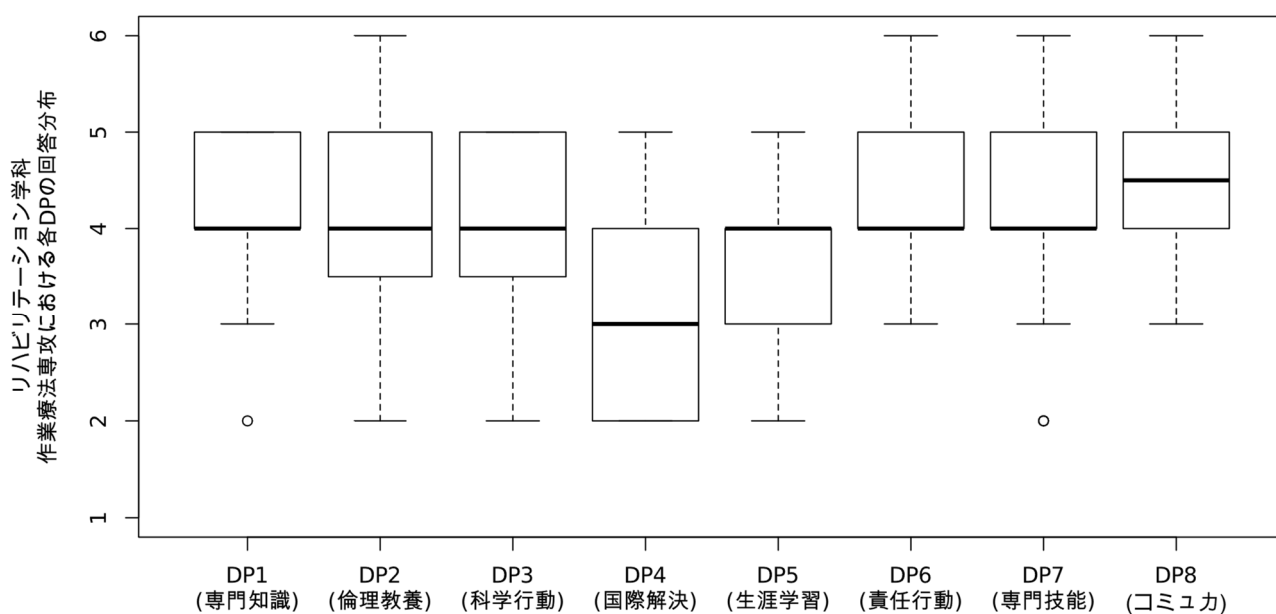
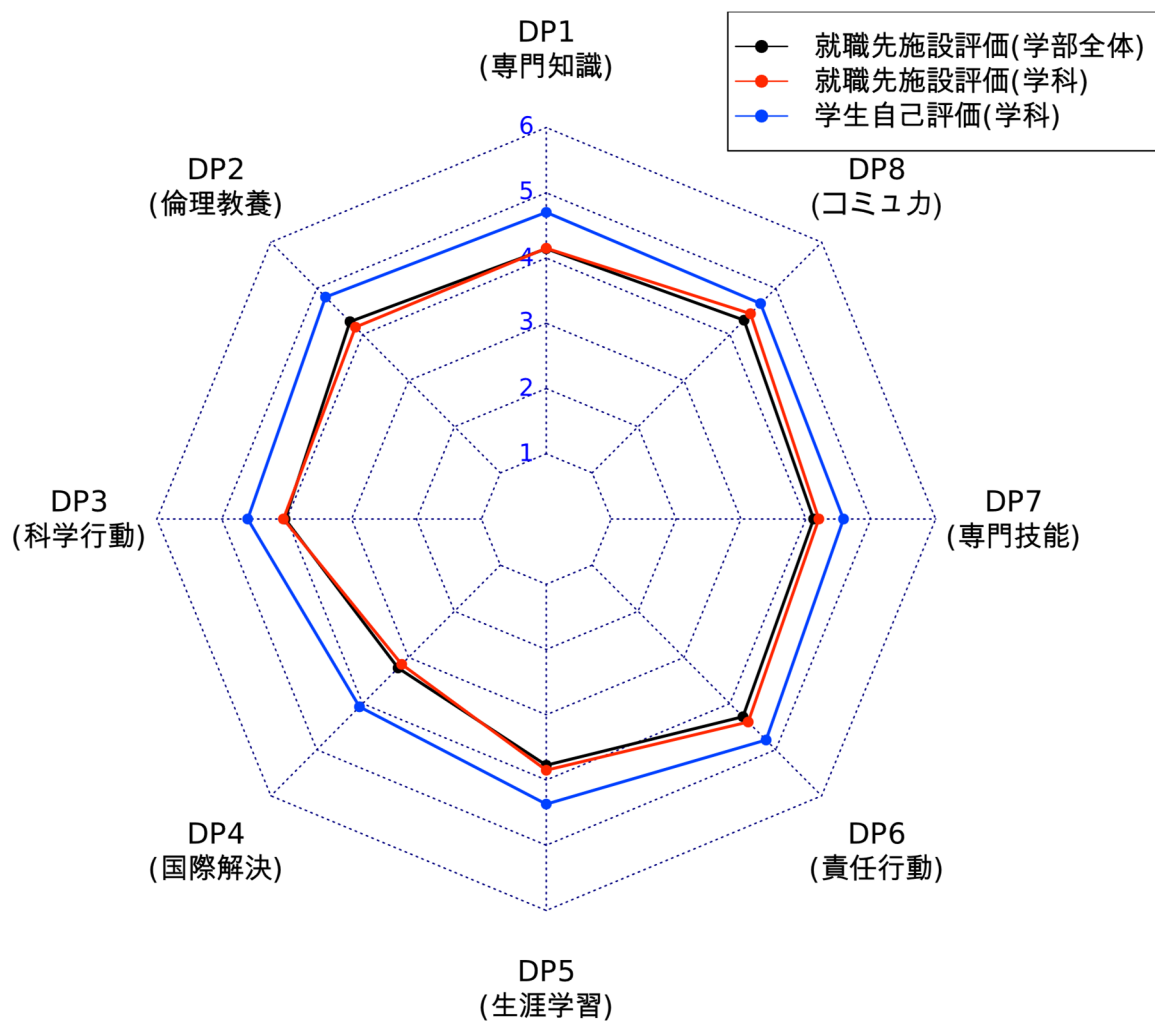


図3-10. リハビリテーション学科作業療法専攻の回答分布



リ作	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.15	4.16	4.05	3.15	3.85	4.40	4.20	4.45
学生自己評価 b	4.70	4.81	4.60	4.07	4.37	4.79	4.58	4.67
差 a-b	-0.55	-0.66	-0.55	-0.92	-0.52	-0.39	-0.38	-0.22

図 3－11. 回答結果のリハビリテーション学科作業療法専攻と学部全体との比較（平均値）

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

保健衛生学部2023年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式またはWeb回答方式（Google フォームを利用）のいずれかで、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者（2023年度本学部卒業生）全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第1～第4教育病院へ就職したものに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）は、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である（表3-1）。また、達成度の6段階の評定尺度も同様である（表3-3）。2020年度保健衛生学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表4-1に示す。

表4-1. アンケート調査票の回収状況（各学科ディプロマ・ポリシー）

卒業生の学科・専攻	対象施設 (部署)	回答施設 (部署)	回収率	退職理由 の未回答
看護学科	12	4	33.3%	1
(教育病院内部署)	43	34	79.1%	0
リハビリテーション学科理学療法専攻	34	25	73.5%	0
リハビリテーション学科作業療法専攻	24	20	83.3%	0
合計	113	83	73.5%	1

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 看護学科

アンケート調査項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）を表4-2に示す。

2023年度看護学科卒業生を対象とした看護学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP8に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-1に示す。各設問に対する回答の割合を図4-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-3に示す。DP1～DP8について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-3に示す。

2023 年度看護学科4年の看護学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価の平均値は3.24～4.08であった。DP1（知識技能）、DP4（生涯学習）、DP6（協調指導）、DP7（地域貢献）、DP8（国際探求）の平均値は4未満であり、DP8（国際探求）が最も低い結果であった。中央値をみるとDP1（知識技能）、DP2（看護基礎）、DP3（自律責任）、DP4（生涯学修）、DP5（コミュ力）、DP6（協調指導）、DP7（地域貢献）は「4：最低水準は修得できた」であった。DP8（国際探求）は「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」であった。傾向としては、2022 年度と比較すると、DP1、DP2、DP3は平均値は少し高くなり、DP5、DP6、DP7は低くなり、DP8は横ばいであった。アンケートの実施時期は、8～9月に集中して実施したため、調査時期は就職し3～4か月後のほぼ同一条件である。臨地での実践は各医療機関の研修体制もありほぼ確立していると考えられる。中央値が3であったDP8（国際探求）においては、新型コロナウイルス感染症による実習体制の縮小が継続した中で、学生が十分に実践できていなかったと考える。

就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は1.11～1.74であり、DP8（国際探求）の差が一番大きかった。学生評価は高い傾向があり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

表4－2．アンケート調査の設問項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (知識技能)	看護職の基盤となる知識と技能が身についていますか？
DP2 (看護基礎)	看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できるようになっていますか？
DP3 (自律責任)	人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができるようになっていきますか？
DP4 (生涯学習)	専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢が身についていますか？
DP5 (コミュ力)	多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができるようになっていきますか？
DP6 (協調指導)	保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォローシップを発揮することができるようになっていきますか？
DP7 (地域貢献)	地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができるようになっていきますか？
DP8 (国際探求)	国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができるようになっていきますか？

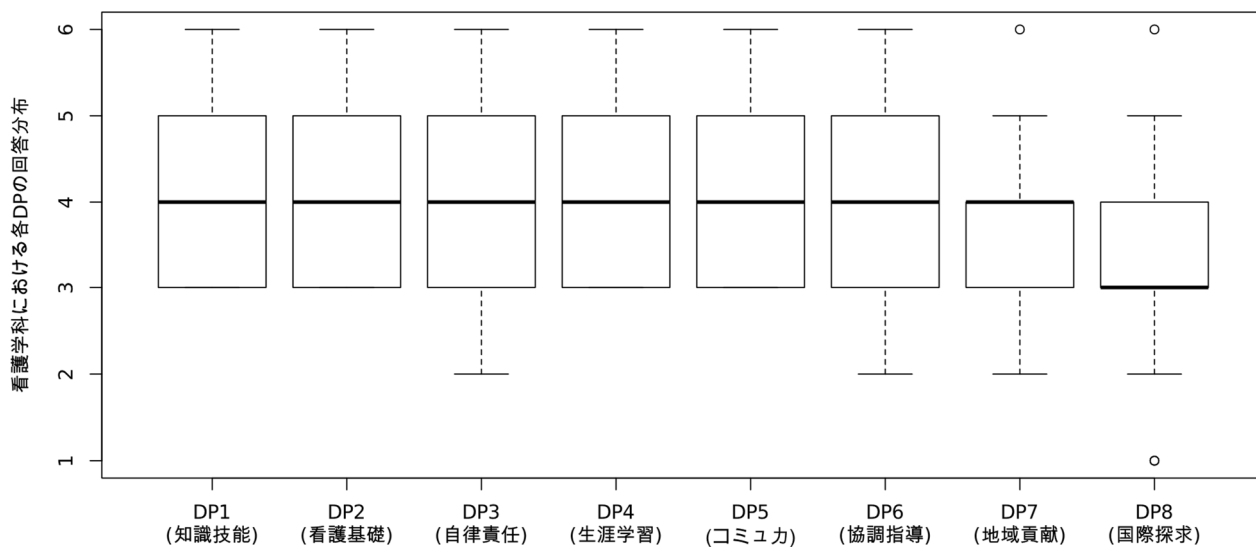


図 4－1. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

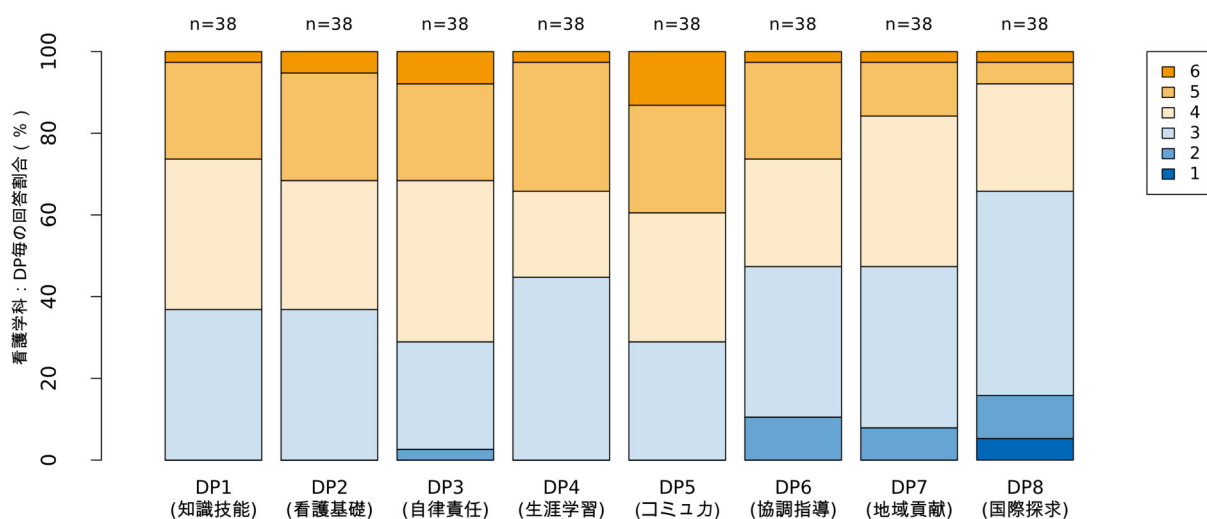
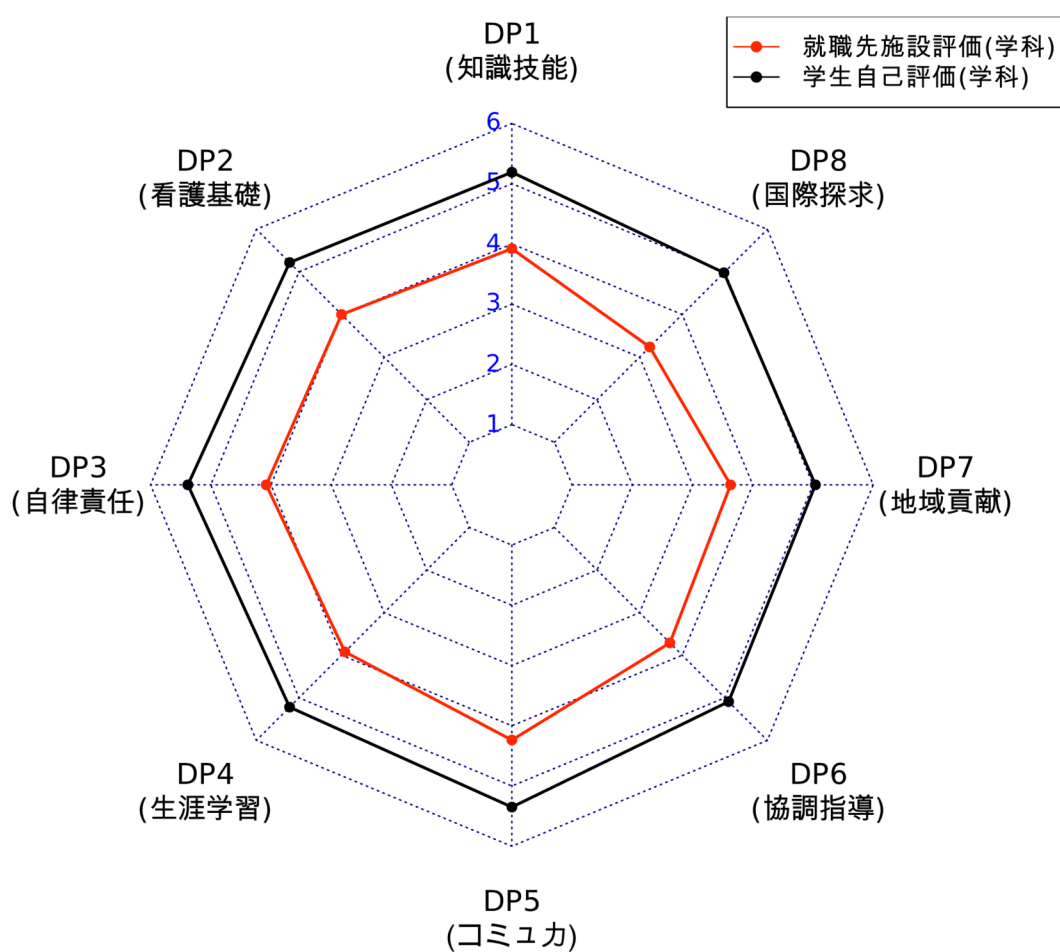


図 4－2. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－3．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

看護	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
平均値	3.92	4.00	4.08	3.92	4.24	3.71	3.63	3.24
標準偏差	0.84	0.92	0.96	0.93	1.01	1.02	0.90	0.98
中央値	4	4	4	4	4	4	4	3
最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	3	3	2	3	3	2	2	1
n	38	38	38	38	38	38	38	38



看護	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	3.92	4.00	4.08	3.92	4.24	3.71	3.63	3.24
学生自己評価 b	5.19	5.22	5.38	5.22	5.35	5.09	5.04	4.98
差 a-b	-1.27	-1.22	-1.30	-1.30	-1.11	-1.38	-1.41	-1.74

図 4－3．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表4-4に示す。

2023 年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-4に示す。各設問に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-6に示す。

2023 年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価の平均値は3.40から4.08であった。また、評定値の中央値は、DP1(専門知識)、DP2(倫理態度)、DP3(科学行動)、DP6(専門技能)、DP7(チーム医療)において「4:最低水準は修得できている」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーが概ね達成できたと考えられる。設問毎の回答割合を確認すると、DP1、DP2、DP6、DP7においてのみ「6:完全に修得できた」との回答があり、これらは医療者および専門的な職業人としての基本的な態度とチーム医療に貢献する資質を問う項目であり、本学科の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。一方で、DP4(生涯学習)、DP5(地域貢献)の評価の中央値は「3:ある程度修得したが、最低水準には届かない」であり、他のDPに比べて低い傾向にあった。今後、「4:最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考える。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値よりも自己評価値が高く、その差は0.78から1.09であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考えられる。

表４－４．アンケート調査の設問項目（リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (専門知識)	医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身についていますか？
DP 2 (倫理態度)	患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身についていますか？
DP 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか？
DP 4 (生涯学習)	最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができるようになっていきますか？
DP 5 (地域貢献)	患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができるようになっていきますか？
DP 6 (専門技能)	専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができるようになっていきますか？
DP 7 (チーム医療)	組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか？

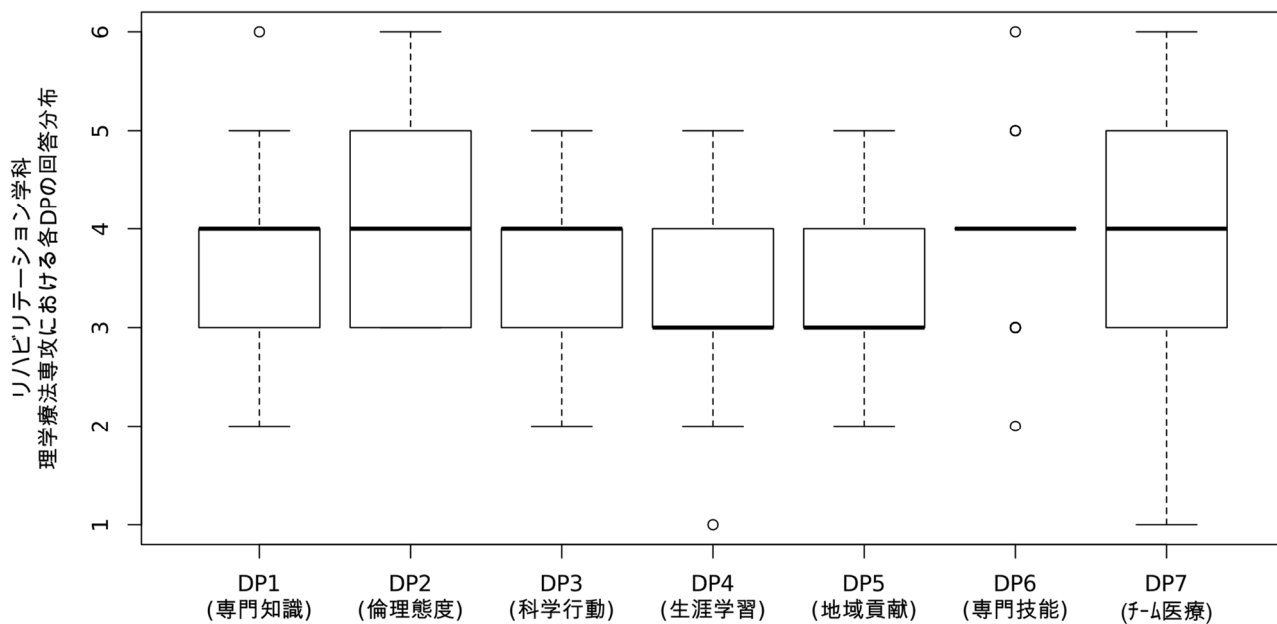


図４－４．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

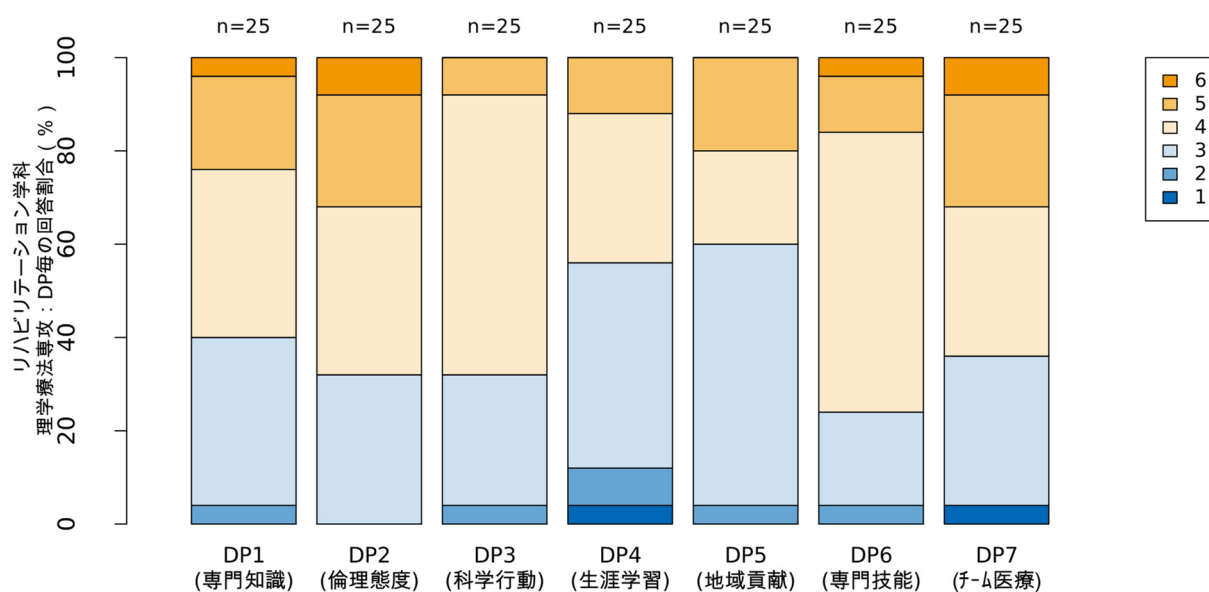
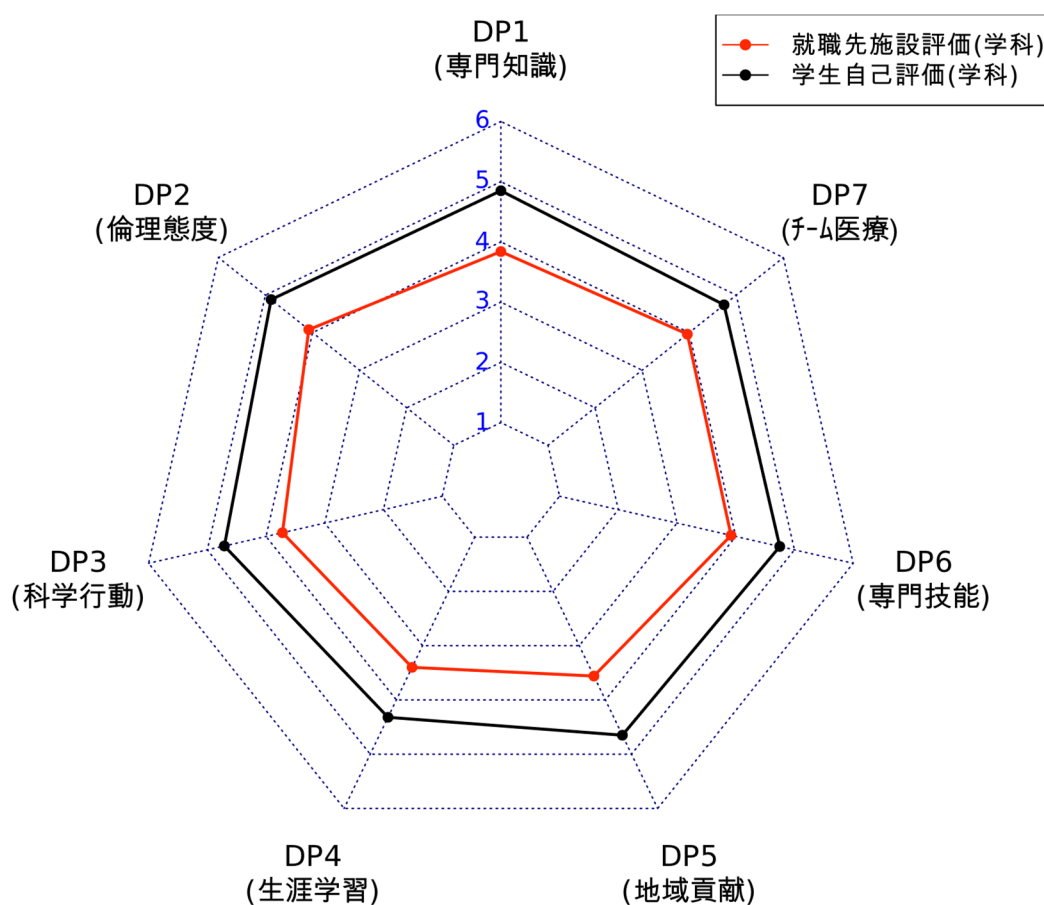


図４－５．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表４－５．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ理	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	3.84	4.08	3.72	3.40	3.56	3.92	3.96
標準偏差	0.92	0.93	0.66	0.94	0.85	0.80	1.11
中央値	4	4	4	3	3	4	4
最大値	6	6	5	5	5	6	6
最小値	2	3	2	1	2	2	1
n	25	25	25	25	25	25	25



リハ・理学	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
就職先施設評価 a	3.84	4.08	3.72	3.40	3.56	3.92	3.96
学生自己評価 b	4.85	4.88	4.71	4.32	4.65	4.75	4.74
差 a-b	-1.01	-0.80	-0.99	-0.92	-1.09	-0.83	-0.78

図４－６．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
評定値の平均値

4-2-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表4-4に示す。

2023 年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-7に示す。各設問に対する回答の割合を図4-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-6に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-9に示す。

2023 年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価の平均値は3.55から4.25であった。また、評定値の中央値は、全ての項目において「4：最低水準は修得できている」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーが概ね達成できたと考えられる。設問毎の回答割合を確認すると、DP2（倫理態度）、DP7（チーム医療）においてのみ「6：完全に修得できた」との回答があり、これらは医療者および専門職業人としての基本的態度やチーム医療を問う項目であることから、本学科の特徴である客観的臨床能力試験（OSCE）、豊富な臨床実習、アセンブリ教育などを通して得られた結果と考えられる。一方で、DP4（生涯学習）は、他のDPと比較して、「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」や「2：十分に修得できていない」の割合が多い傾向を認めた。今後、「4：最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考えられる。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値よりも自己評価値が高く、その差は0.42から0.86であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考えられる

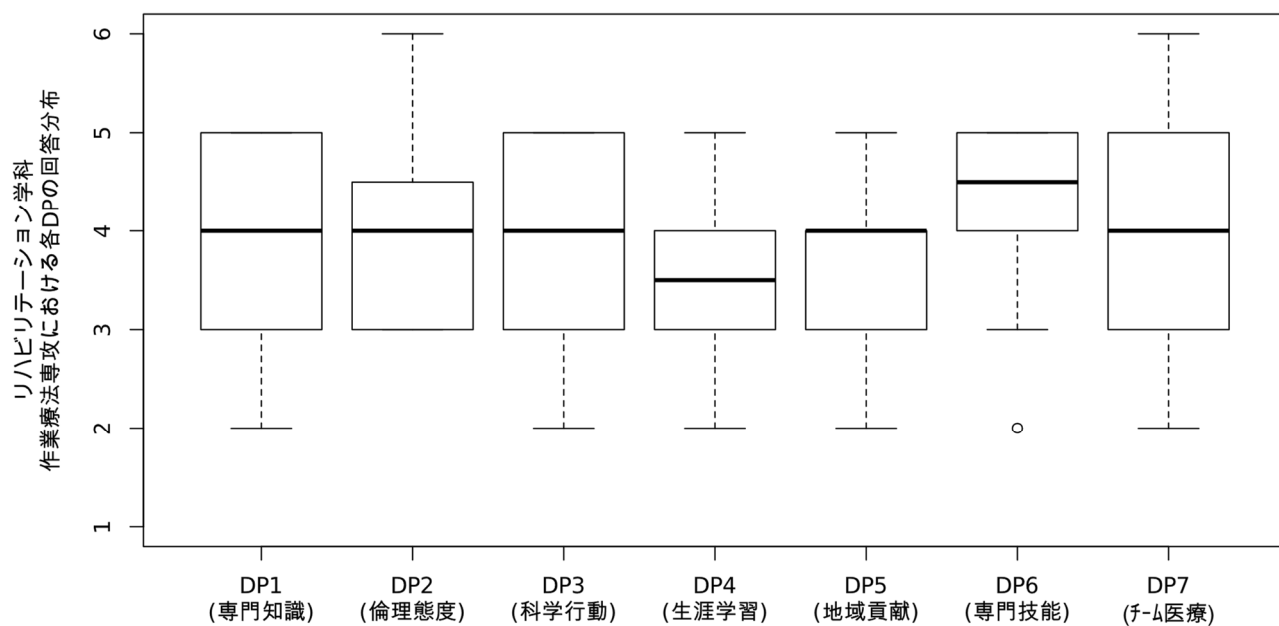


図４－７．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

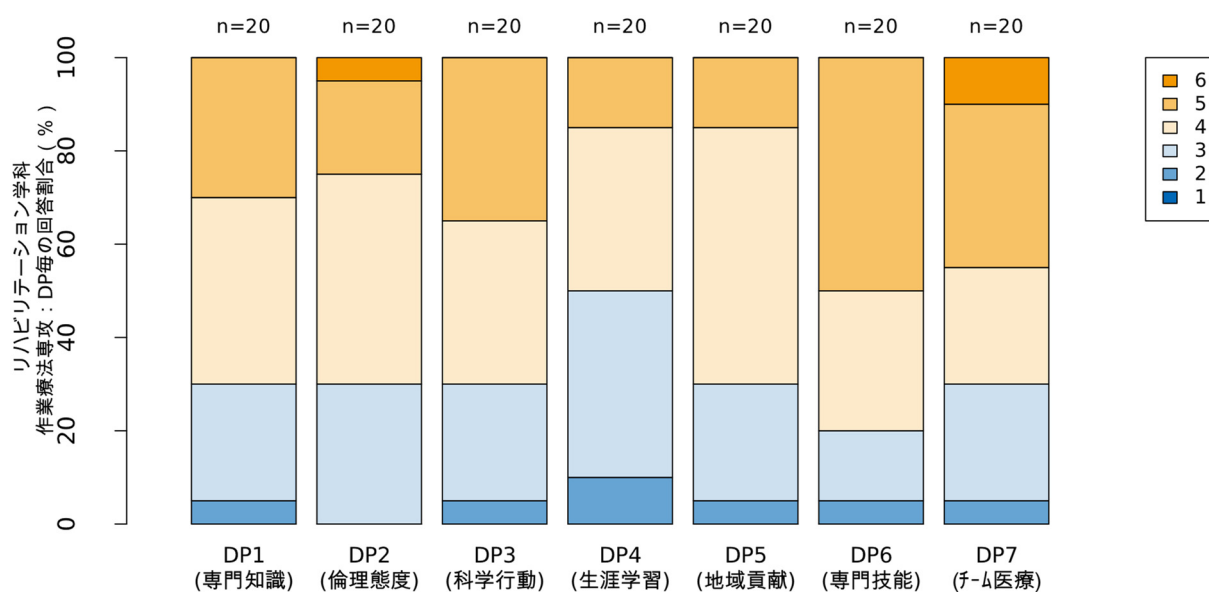
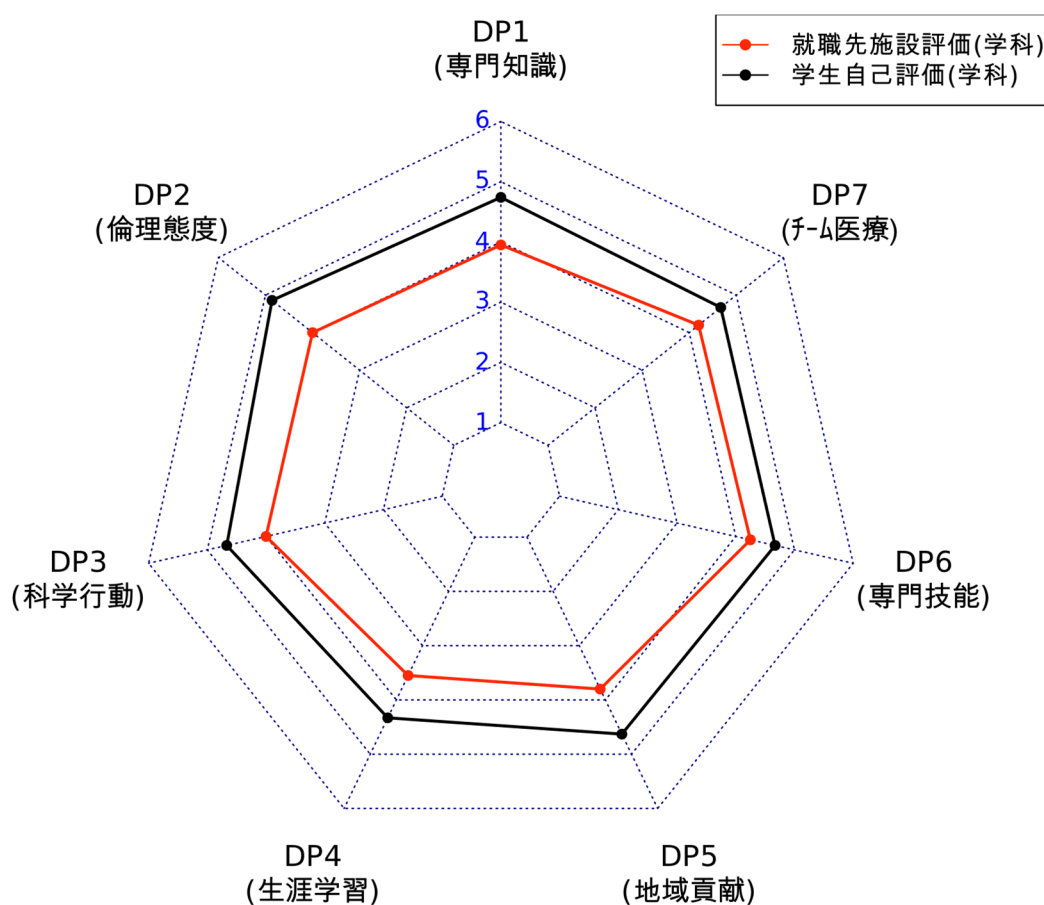


図４－８．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表 4－6．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ作業	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	3.95	4.00	4.00	3.55	3.80	4.25	4.20
標準偏差	0.86	0.84	0.89	0.86	0.75	0.89	1.08
中央値	4	4	4	4	4	5	4
最大値	5	6	5	5	5	5	6
最小値	2	3	2	2	2	2	2
n	20	20	20	20	20	20	20



リハ・作業	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
就職先施設評価 a	3.95	4.00	4.00	3.55	3.80	4.25	4.20
学生自己評価 b	4.74	4.86	4.67	4.33	4.63	4.67	4.67
差 a-b	-0.79	-0.86	-0.67	-0.78	-0.83	-0.42	-0.47

図 4－9．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
評定値の平均値

5. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年～2024年の5年間の就職先施設管理者評価による到達度調査の結果について、保健衛生学部全体での就職先施設管理者評価の平均値の推移を図5-1に示す。

各DP項目の就職先施設管理者評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年3月～2025年3月の5年間の就職先施設管理者評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の就職先施設管理者評価の回答の割合の推移を図5-2に示す。

図5-1に示すとおり経年的に平均値の変化はほぼ変化していないが、図5-2の回答の割合別の経年的推移は、DP1（専門知識）では、「5：概ね修得できた」が減少傾向であったが、「6：完全に修得できた」が増加傾向を示していた。DP2（倫理教養）とDP3（科学行動）では、「4：最低水準は修得できた」は減少傾向であったが、「5：概ね修得できた」が増加傾向を示していた。DP4（国際解決）では、「2：十分に修得できていない」が減少傾向であったが、「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」が増加傾向であった。DP5（生涯学習）では、昨年より「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」が増加し、「4：最低水準は修得できた」が減少していた。DP6（責任行動）では、大きな変動はみられなかった。DP7（専門技能）では、昨年より「4：最低水準は修得できた」が減少し、「5：概ね修得できた」が増加していた。DP8（コミュ力）では、「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」と「6：完全に修得できた」が増加傾向で、「5：概ね修得できた」が減少傾向を示していた。

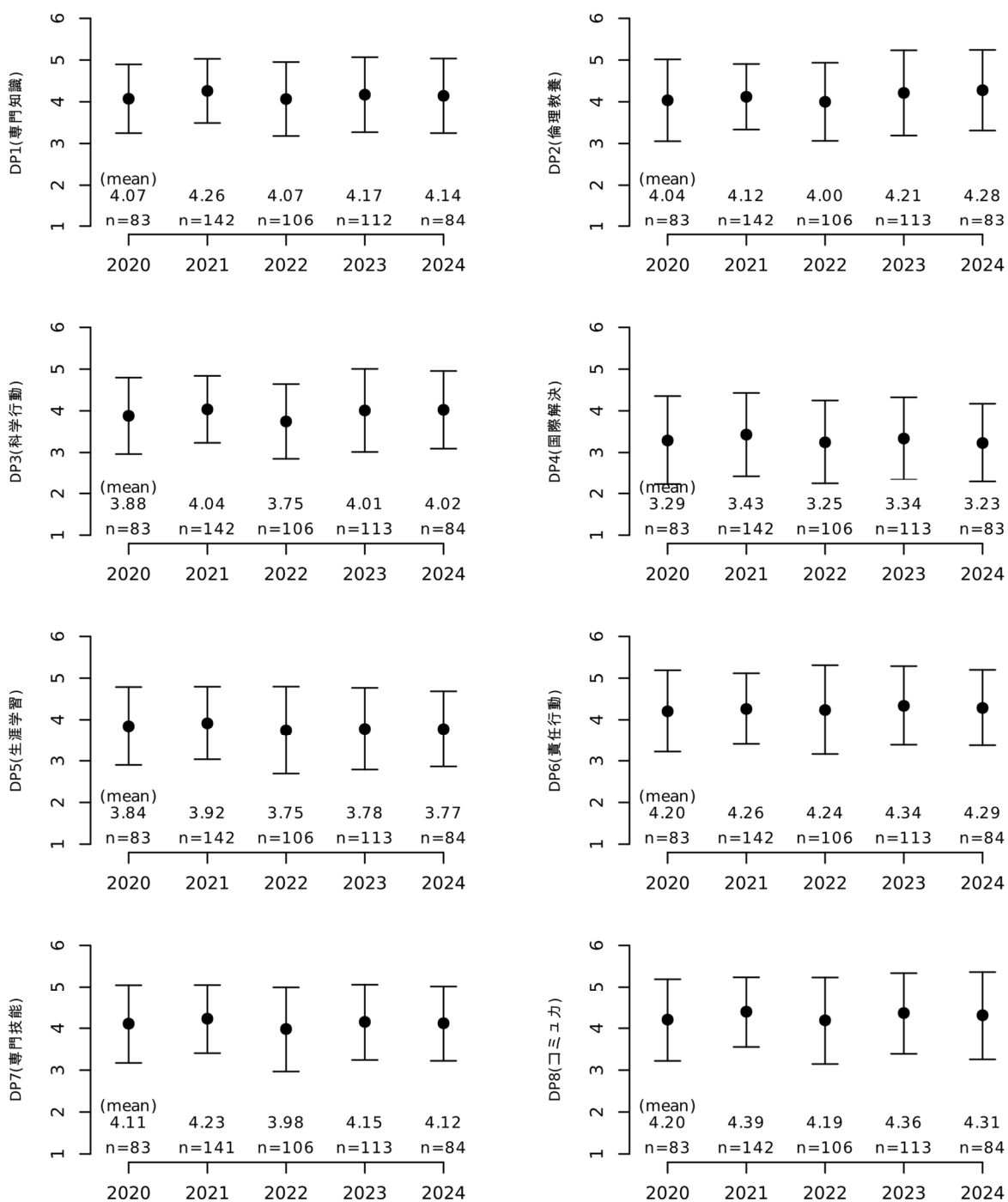


図5－1. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（平均値）の推移

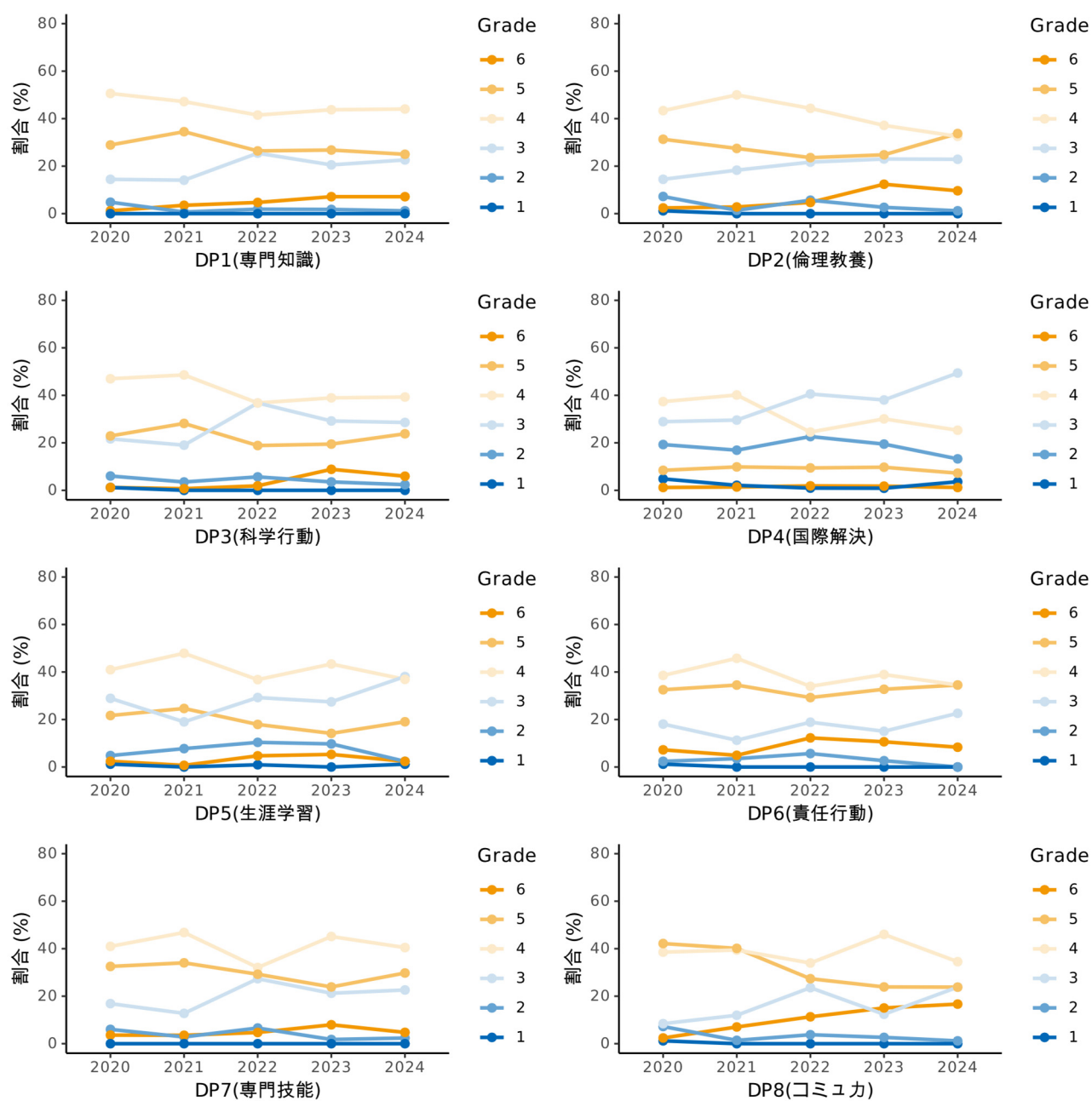


図 5－2. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（回答割合）の推移

6. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度の経年的分析

6-1) 看護学科

看護学科ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、就職先管理者評価の平均値の推移を図6-1に示す。

各DP項目の就職先管理者評価の平均値について、2022年度はやや低下の傾向にあるが、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

看護学科ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の就職先管理者評価の回答の割合の推移を図6-2に示す。

各DPについて、多少の上下はあるが「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下の評価の割合は、DP1（知識技能）、DP2（看護基礎）DP4（生涯学習）、DP8（国際探究）を除いて、小さなばらつきはあるがほぼ横ばいであった。DP1（知識技能）、DP2（看護基礎）DP4（生涯学習）、DP8（国際探究）は「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」の割合が増加傾向にあった。

DP8（国際探究）以外では、「5：概ね修得できた」と「6：完全に修得できた」はわずかに増加傾向を示した。最低水準以上の評価を受けている学生の中で差が開いてきている傾向がみられた。

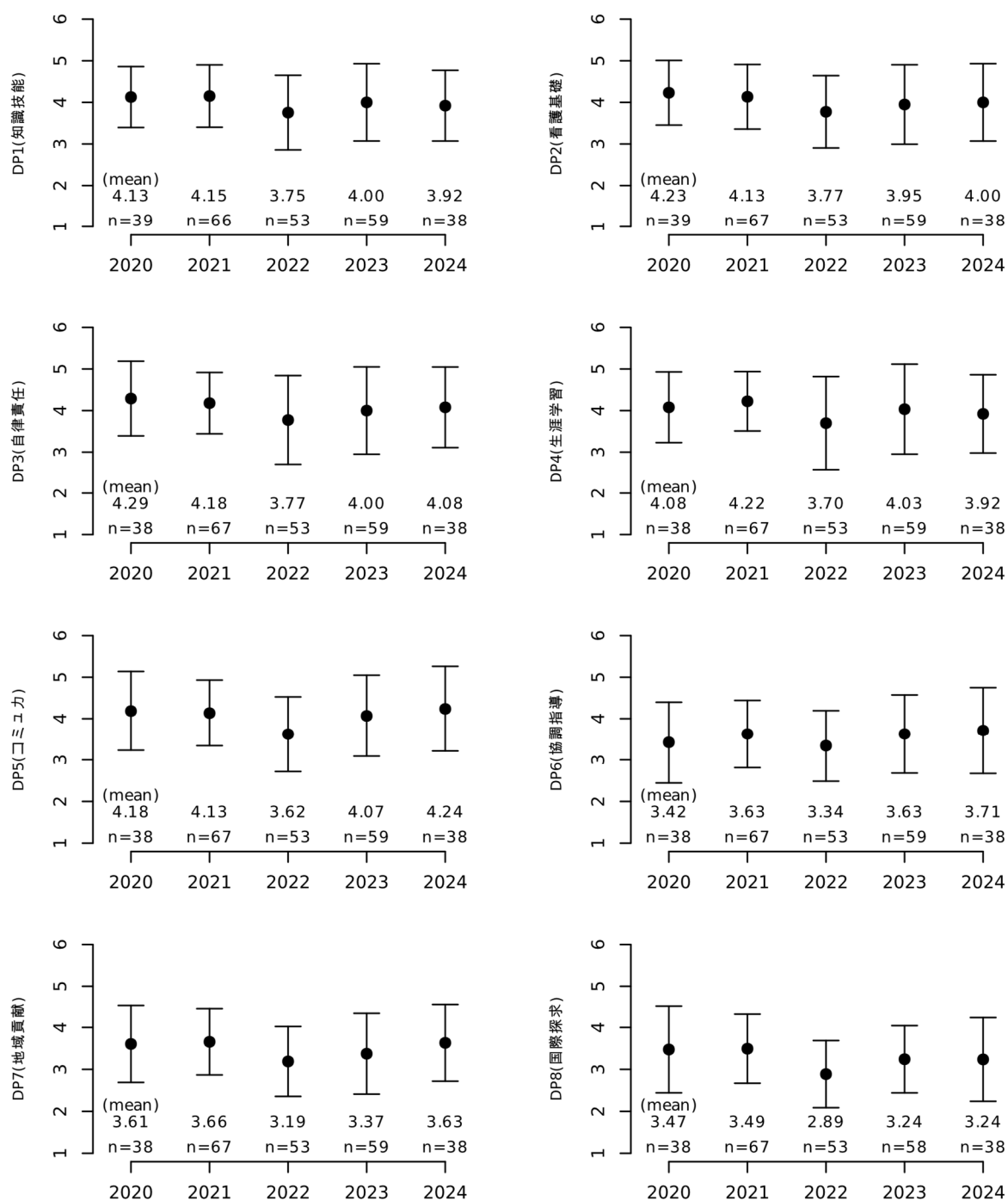


図6－1．看護学科ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（平均値）の推移

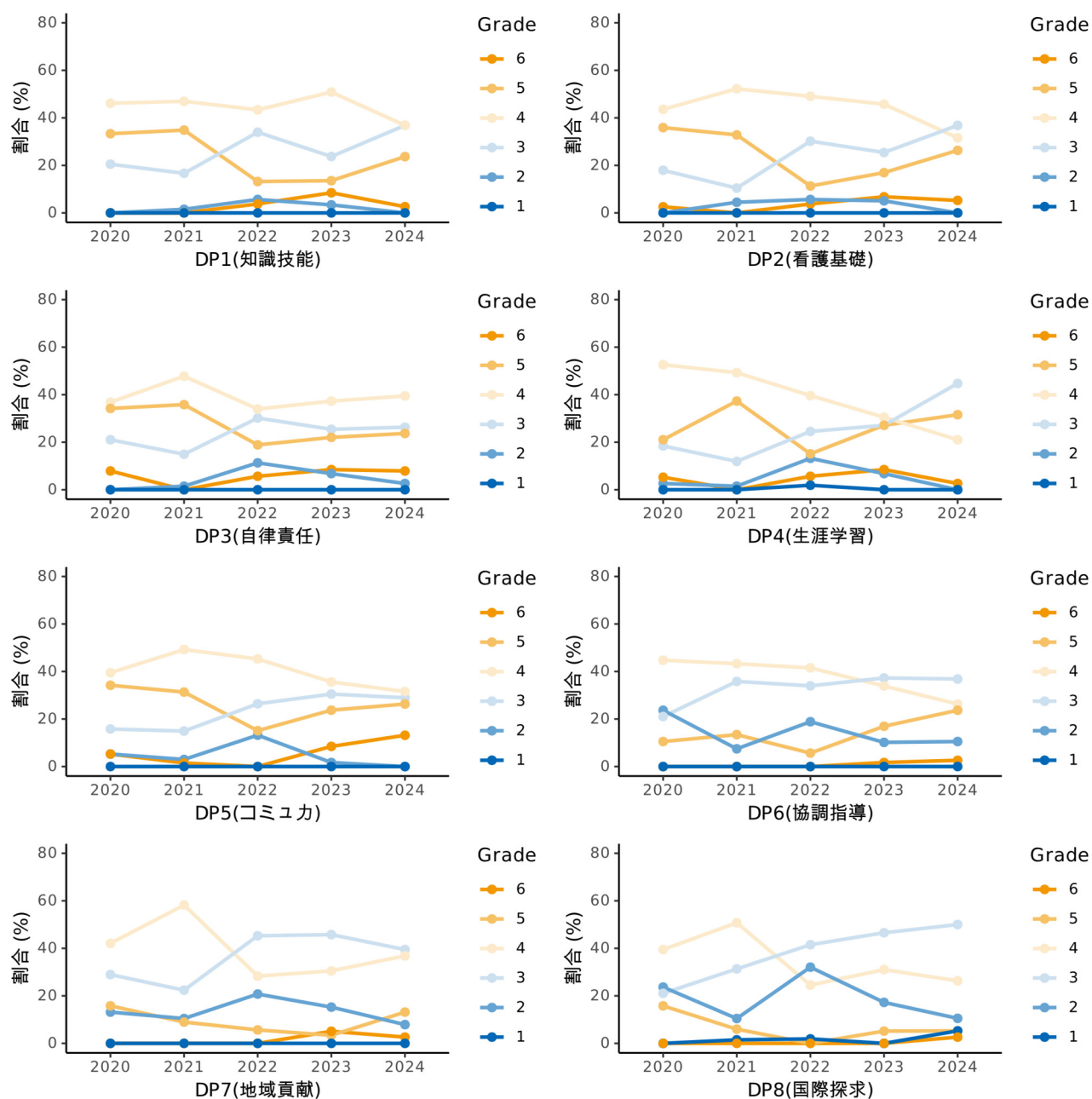


図6-2. 看護学科ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設管理者評価（回答割合）の推移

6-2-1) リハビリテーション学科（理学療法専攻）

リハビリテーション学科（理学療法専攻）ディプロマ・ポリシーの7項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、就職先管理者評価の平均値の推移を図6-3に示す。

各DP項目の就職先管理者評価の平均値は、各年による若干の増減はあるものの、ほぼ同等の値を示していた。一方で、今回の2024年調査における平均値は、全てのDPにおいて過去の平均値よりもやや低い値を示した。

リハビリテーション学科（理学療法専攻）ディプロマ・ポリシーの7項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の就職先管理者評価の回答の割合の推移を図6-4に示す。

ほぼ全てのDPにおいて「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」、「4：最低水準は修得できた」、「5：概ね修得できた」の割合が各年によってばらつく傾向が認められた。今回の2024年調査においては、全てのDPにおいて「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」の回答割合に増加傾向がみられた。

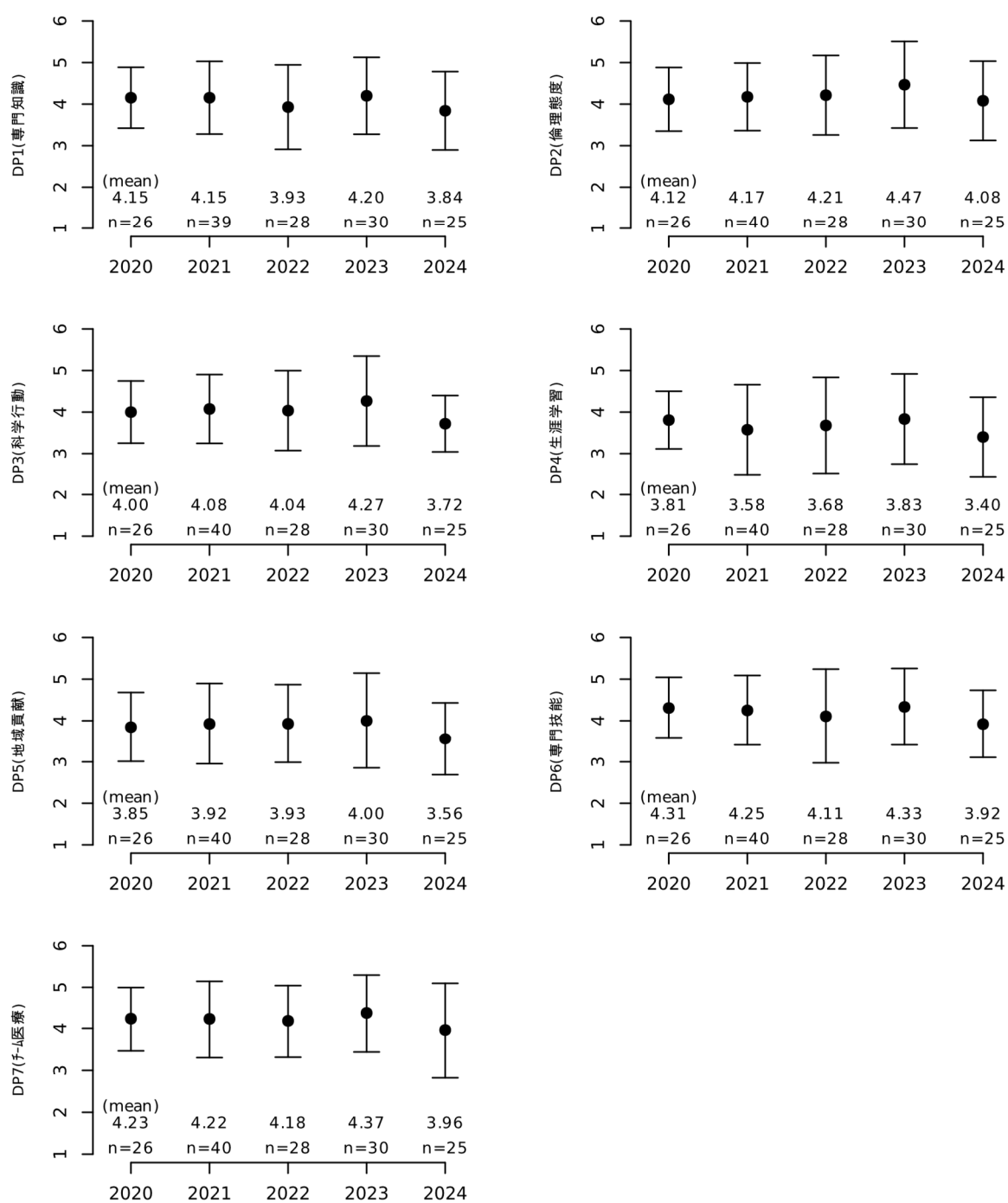


図6-3. リハビリテーション学科（理学療法専攻）ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設
管理者評価（平均値）の推移

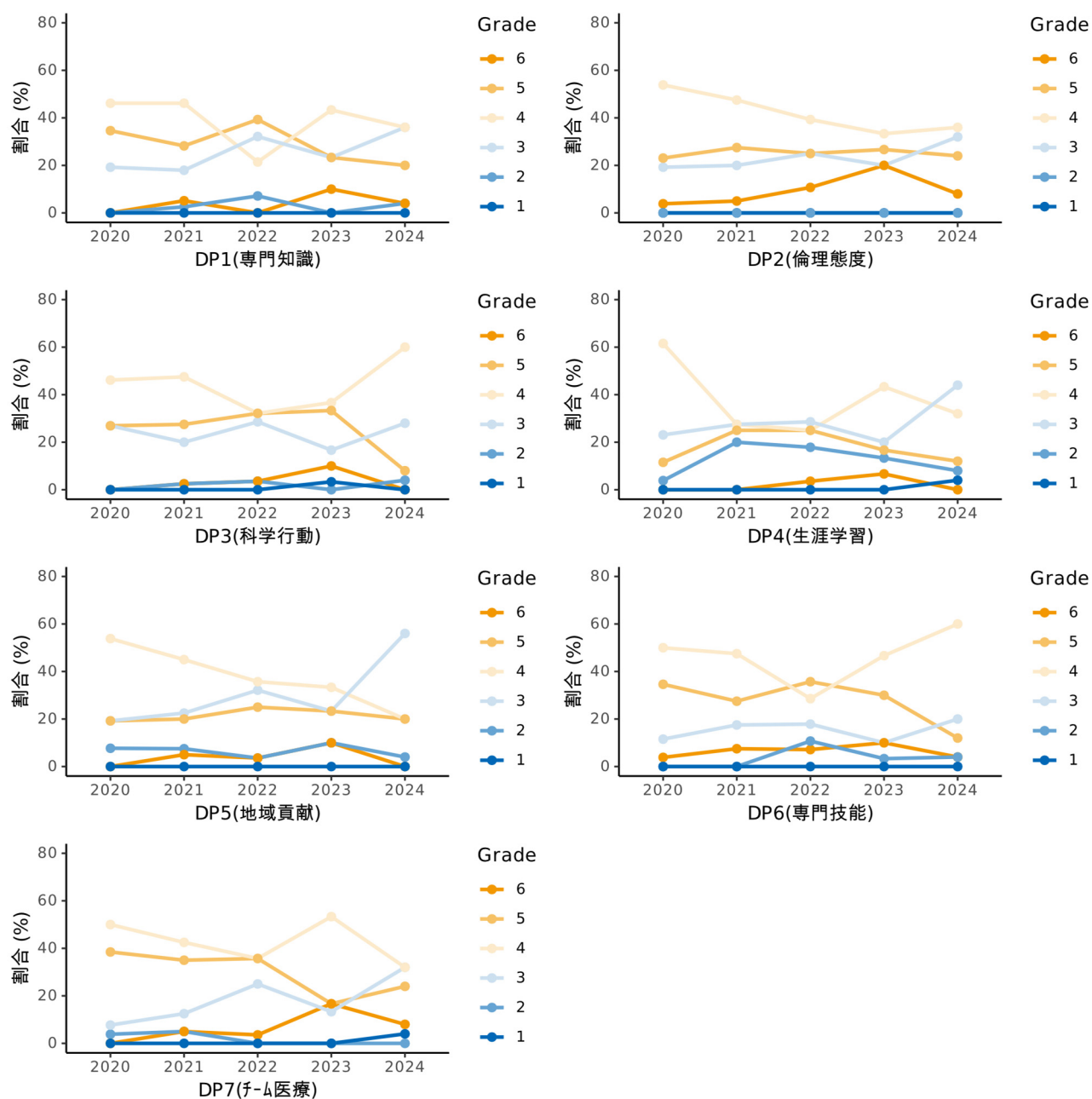


図6-4. リハビリテーション学科（理学療法専攻）ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設
管理者評価（回答割合）の推移

2-2-2) リハビリテーション学科（作業療法専攻）

リハビリテーション学科（作業療法専攻）ディプロマ・ポリシーの7項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、就職先管理者評価の平均値の推移を図6-5に示す。

各DP項目の就職先管理者評価の平均値について、各年による若干の増減はあるものの、平均値はほぼ同等の値を示しており、今回の2024年調査を含め、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

リハビリテーション学科（作業療法専攻）ディプロマ・ポリシーの5項目について、2020年3月～2024年3月の5年間の就職先管理者評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の就職先管理者評価の回答の割合の推移を図6-6に示す。

評価の平均値は大きく変化していないが、回答については「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」、「4：最低水準は修得できた」、「5：概ね修得できた」の割合が各年によってばらつく傾向が認められた。今回の2024年調査においては、DP1（専門知識）、DP3（科学行動）、DP5（地域貢献）、DP6（専門技能）、DP7（チーム医療）において、「5：概ね修得できた」の回答割合に増加傾向がみられた。

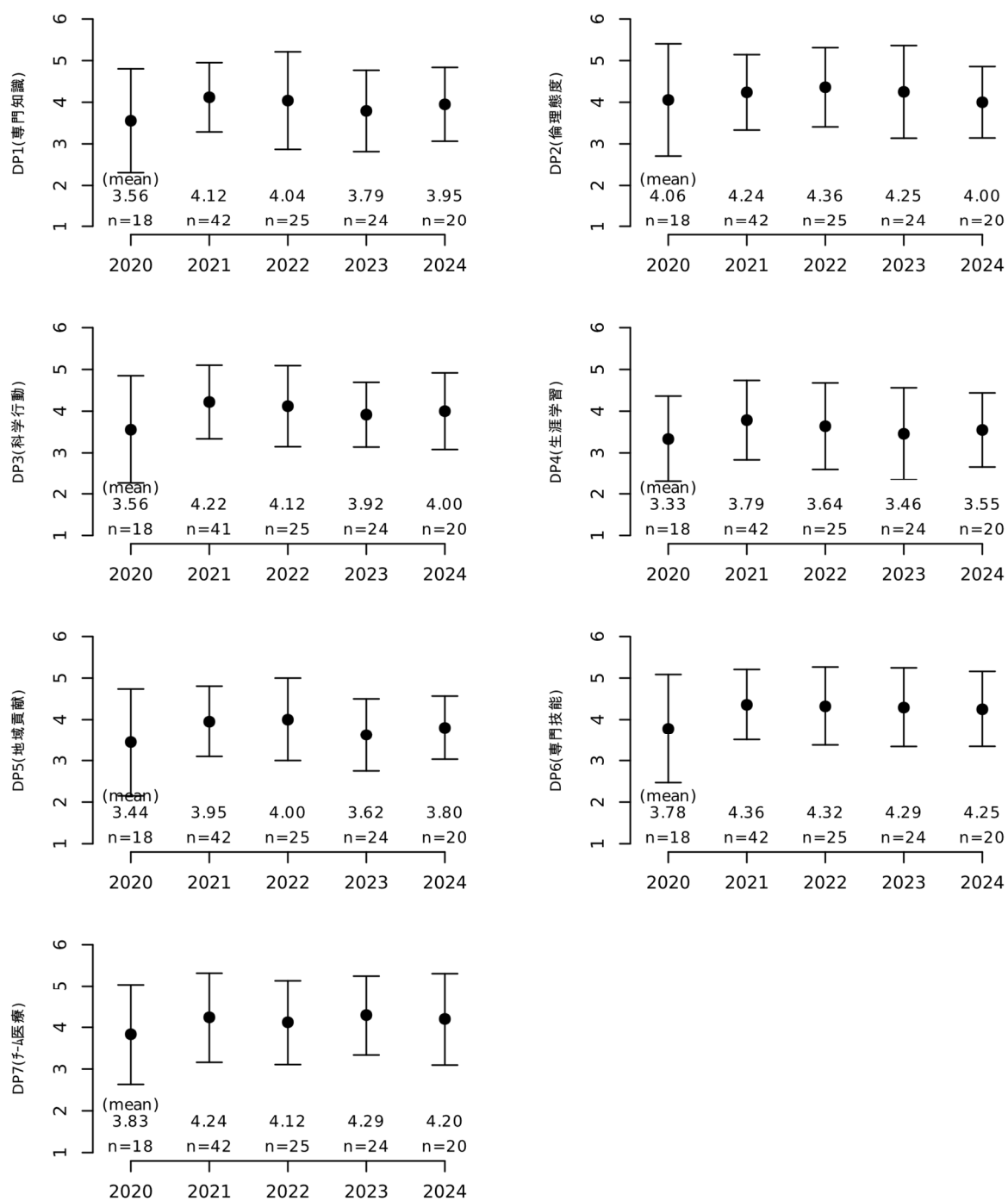


図6-5. リハビリテーション学科（作業療法専攻）ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設
管理者評価（平均値）の推移

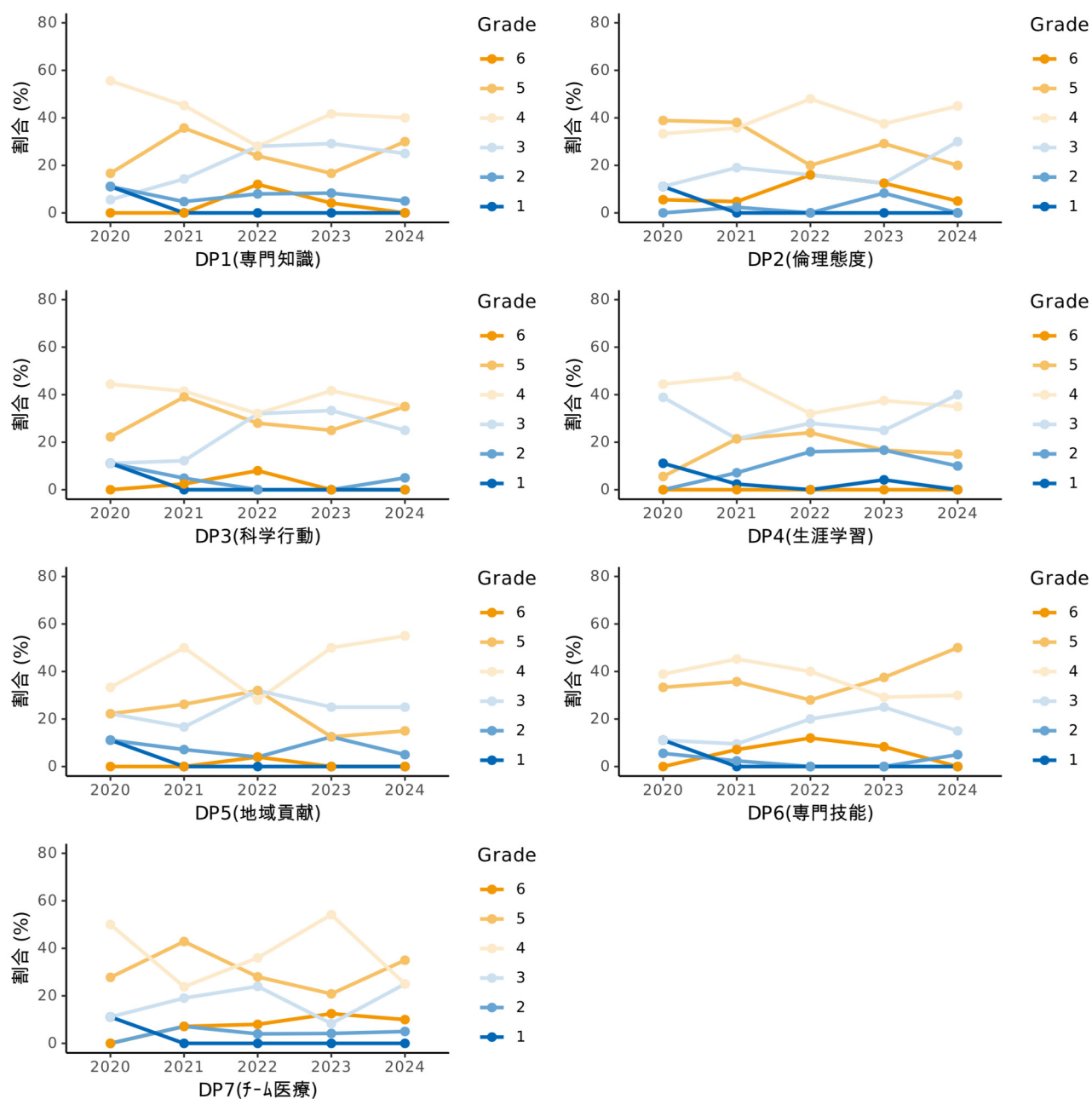


図2-6. リハビリテーション学科（作業療法専攻）ディプロマ・ポリシーの到達度就職先施設
管理者評価（回答割合）の推移

7. 参考資料

2023 年度保健衛生学部卒業生（看護・リハビリテーションの各学科）の就職先施設に対し、図 7－1 に示す調査依頼状を送付し、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

●●●●●●●●●●病院
採用ご担当者様

2024 年 8 月吉日

藤田医科大学
保健衛生学部 学部長 堀江 裕
IR 推進センター長 木田 充彦

保健衛生学部卒業生に関する到達度アンケート
ディプロマ・ポリシーに関する調査のお願い（依頼書）

平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。本年度までに貴院でご採用頂きました本学の保健衛生学部卒業生（看護学科・リハビリテーション学科理学療法専攻・作業療法専攻）を対象とした調査を実施したく、ご協力をお願い致します。本調査は、在学中の保健衛生学部及び学科別の教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養が貴院に採用いただいた卒業生にどの程度身についているか、就職先である各施設より評価をしていただくものです。既に、卒業生は卒業時に 4 年間の振り返り、ディプロマ・ポリシーの自己評価を終えております。卒業後数ヶ月～数年経過したこの時点で、本学卒業生のディプロマ・ポリシー到達度を評価して頂きたく、お願い申し上げます。評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますようお願い計らい頂ければ幸いです。この調査は、文部科学省が進める私立大学等改革総合支援事業に沿って実施するものです。業務多忙な中お手数をかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。

－ 記 －

調査内容：本学卒業学生の就職先施設によるディプロマ・ポリシー到達度評価調査
回答期間：本書到着日～2024 年 9 月 30 日（月）
調査対象：2024 年 4 月入職者（2024 年 3 月卒業生）
同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。

調査方法：調査対象について、配属先の上長による調査票への回答

同封書類：
1. Google フォームによる WEB 回答のご案内
2. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー調査内容
3. 各職種ディプロマ・ポリシー調査内容

以上

お問い合わせ窓口：
藤田医科大学 事務局 学務部
学生支援課 キャリヤ支援担当
(TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)

■Google フォームによる WEB 回答のご案内■

本学では SDG s 推進、環境負荷低減、コスト削減の観点からペーパーレス化を推進しております。調査回答につきましては、ご案内の URL または、以下の QR コードをスマートフォン等から読み取りご回答いただく事が可能です。




対象職種	調査回答 URL	調査回答 QR コード
看護師	https://forms.gle/hTtH25T8RknwGMe5	
理学療法士	https://forms.gle/RrHPdARHao9RR9	
作業療法士	https://forms.gle/XvQTAF3EDPKeuV08	

図 7－1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（その 1）
（看護学科・リハビリテーション学科理学療法専攻／作業療法専攻）

<p>■保健衛生学部ディプロマ・ポリシー調査内容■</p> <p>藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーについて、その到達度を6段階（悪い1<2<3<4<5<6良い）で評価してください。</p> <p>・保健衛生学部 ディプロマ・ポリシー評価項目（計8項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できていますか。 2. 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身についていますか。 3. 対人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価する為の情報の統合と適切な判断を行え、必要な行動を示すことができるようになっていますか。 4. 国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができるようになっていますか。 5. 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができるようになっていますか。 6. 対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任を持った行動をとることができるようになっていますか。 7. 専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができるようになっていますか。 8. 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていますか。 	<p>■各職種ディプロマ・ポリシー調査内容■</p> <p>藤田医科大学保健衛生学部の各学科ディプロマ・ポリシーについて、その到達度を6段階（悪い1<2<3<4<5<6良い）で評価してください。</p> <p>・看護師および保健師（看護学科ディプロマ・ポリシー）評価項目（計8項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職の基盤となる知識と技能が身についていますか。 2. 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できるようになっていますか。 3. 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある行動をとることができるようになっていますか。 4. 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学修を生涯継続していく姿勢が身についていますか。 5. 多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができるようになっていますか。 6. 保健医療福祉のチームに関わる人々と協調し、リーダーシップやフオロウシップを発揮することができるようになっていますか。 7. 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができるようになっていますか。 8. 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができるようになっていますか。
--	---

図 7－1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（その2）
（看護学科・リハビリテーション学科理学療法専攻／作業療法専攻）

<p>■各職種ディプロマ・ポリシー調査内容■</p> <p>藤田医科大学保健衛生学部 各学科ディプロマ・ポリシーについて、その到達度を6段階（悪い1<2<3<4<5<6良い）で評価してください。</p> <p>・理学療法士および作業療法士 （リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）評価項目（計7項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身についていますか。 2. 患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の導線を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身についていますか。 3. 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていますか。 4. 最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させるようになっていますか。 5. 患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができるようになっていますか。 6. 専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができるようになっていますか。 7. 組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていますか。

図 7－1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（その3）
（看護学科・リハビリテーション学科理学療法専攻／作業療法専攻）